The Graduates' Association of Tokyo University of Agriculture and Technology

農工通信

No.104
2023.8

黒部川・祖母谷合流点

2024年 農工大は創基150周年を迎えます

一般社団法人
東京農工大学同窓会
https://tuat-dousoukai.org/

農工通信［No.104］

Contents

同窓会長挨拶…… 1
理事長就任の挨拶・理事長退任の挨拶…… 2
一般社団法人東京農工大学同窓会第５回定時総会…… 3
同窓会役員等体制・支部長及び連絡員表…… 9
代議員一覧…… 10
令和４年度同窓会学生援助事業報告…… 11
部会・支部・同好会・クラス会だより …… 12
叙勲受章にあたり…… 19
　小林　駿介、田倉　和男、多田　全宏
退職にあたり…… 22
　直井　勝彦、竹原　一明、蓮見　惠司、森　祐希子、山崎　　孝
同窓生からの寄稿文
　「食は命」あなたの身体は、食物によって日々つくられます。
　　前之園孝光　獣医　S44 …… 24
　酒飲みのシルクロード　溝口　正伸　製糸　S46 …… 24
　一瞬の４年間とその後　山田　正彦　製糸　S46 …… 25
　母校に戻ってとった博士号　新仏　利仲　機械　S46 …… 26
　和歌山からの便り　藤原　洋美　製糸　S47 …… 26
　屋久島の思い出　伊藤　道男　林学　S48 …… 27
　70歳を迎えて支部長へ　後藤　　卓　林産　S50 …… 28
　身を削って助けてくれた恩師　高野　文夫　化工　S51 …… 28
　マングローブの保全・再生で地球温暖化抑制に貢献したい！
　　馬場　繁幸　林学院S52 …… 29
　３年ぶり　坂本　英介　蚕糸　S53 …… 30
　新刊「日本の川」撮影記　北中　康文　環保　S55 …… 30
　思い出と近況報告　齊藤　木市　林学　S55 …… 31
　変わりゆく風景と変わらないもの　曲沢　　修　環保　S59 …… 32
　卒業旅行の思い出　加納　優子　農化　S62 …… 32
　東京農工大学少林寺拳法部ＯＢ会　「拳友会」の活動ご紹介
　　間野　大樹　機シスH7 …… 33
　　岡部　敏弘　林産院S56 …… 33
　朝ドラ『舞いあがれ』に想う五島の思い出　才津　行弘　獣医　H11 …… 33
　東京農工大学スマートモビリティ研究拠点の紹介
　　ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク　機シス院H14 …… 34
キャンパス便り
　アフターコロナの農工祭
　　第64回学園祭実行委員長　佐野　翔梧　地域生態システム学科3年 …… 35
　航空研究会　牧野　莉央　機械システム工学科4年 …… 35
　農学部・工学部協力による科学博物館プロジェクト
　「＃ワタを育てて機械を動かそう」の試み　科学博物館 特任助教　齊藤有里加 …… 36
掲示板 …… 37
広　告 …… 39
事務局だより …… 42

＊同窓会で使用する学科略記は、学部卒業時の所属を基本としています（修士、博士から入学された方は、最初に修了した時の専攻になります）。学科略記表は同窓会HPの「同窓会について（組織・役員・委員会）」に掲載しています。

会長挨拶

会長　**五味　勝**（電子S54）

会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素は本会活動に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

2020年から始まったコロナ感染症も５類感染症に移行し、少しほっとした気分になれたと思います。この間、学生の方々はキャンパス内での活動が制限され本来のキャンパスライフを満喫できず、同窓生の皆様も仕事や、家庭で不自由やご苦労を強いられたことと思います。この誰も経験したことのない苦しかった３年半から脱却して楽しい活気のある日々を取り戻せることを期待しております。

本来であれば、一昨年６月に会長に選任いただいてから２年が経過し新しい会長にバトンタッチの予定でしたが、あと２年会長を務めさせていただくこととなりました。会長としてしっかり成果を残しなさいという叱咤激励と受け止め、初心に戻って務めさせていただきます。

昨年11月に行われたホームカミングデーは、工学部の講堂をお借りして対面とオンラインの併用で開催いたしました。工学部教員による講演、学生による発表が行われ、希望者には同月に開院した東京農工大学小金井動物救急医療センターの見学会も実施いたしました。今年も11月に開催予定です。学園祭も開催されておりますので是非農工大学のキャンパスを訪れ、旧交を温めていただければと思います。

大学は2024年に創基150周年を迎えます。同窓生の皆様には、この大きなイベントに向けて東京農工大学基金へのご寄附により多くのご支援をいただいております。同窓会としては創基150周年を成功に導き、大学のさらなる成長のために継続的な支援を行っていく所存です。皆様のご理解とご協力を今後ともお願いいたします。

同窓会は、「会員相互の親睦を深め、同窓並びに東京農工大学の発展を図ること」を目的としています。総会、部会・支部総会、各種同好会、在学生への就職支援など様々な活動を行っています。今後は、千葉学長が目指されている「より質の高い教育、研究を実践すると共に、持続発展的に社会を動かす原動力となる大学を目指す」ビジョンのもと、大学教育の特色や教育力の高さを外部に伝えられるように活動の範囲を広げていきたいと思います。

同窓会の組織強化と活性化を着実に前進させ、会員相互の親睦を深め、より良い同窓会として皆様にご提供できるよう努めてまいります。皆様のご健康と益々のご発展を心よりお祈りしております。

▶表紙の写真

「黒部川・祖母谷合流点」　北中　康文（環保S55）

昨年７月、富山県の黒部川を訪問。『日本の川』という図鑑を出版するためでした。宇奈月温泉からトロッコ列車に乗り、欅平で下車。徒歩１時間で祖母谷温泉へ。約60万年前に形成された世界一新しい花崗岩礫をカメラに収め、来た道を戻りました。そして、欅平の手前で写真の光景が飛び込んできたのです。ここは黒部川本流と祖母谷（右）の合流点。緑の大峡谷に涼やかな水音が響いていました。

題 字：沢野　勉（農化S32）

理事長就任の挨拶

理事長　**戸田　浩人**（林学S59）

今後２年間、理事長を務めることとなりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。同窓会の総会は、令和２～４年度にかけて新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から代議員の皆様から決議書をいただくことで、ごく少人数での開催となりました。各支部総会や部会の総会なども、やむなく中止や縮小開催などをされ大変なご苦労があったことと存じます。今年、令和５年度の総会は実に４年ぶりの対面開催で、懇親会も企画され交流を復活させることができました。ひとえに関係各位のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

ポストコロナの同窓会活動をいかに充実させ、同窓生の皆様や準会員である学生へ、いっそう同窓会を認知・活用いただけるよう運営していくことが、この時期に就任した私に課せられた使命であると考えております。この間に培われたオンライン会議の手軽さという良い面も活かしつつ、対面で交流を深める同窓会の諸活動を推進していく所存です。

本学の創基150周年を令和６年度に迎えるにあたり、大学で様々な企画が動き始めました。同窓会として大学の企画を支援・協力することはもとより、同窓会運営委員会にて記念行事を練ってまいりたいと思います。会員の皆様には、引き続きご支援、ご協力ならびに忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

理事長退任の挨拶

桑原　利彦（生機S57）

コロナ禍もようやく終息しつつあります。キャンパスにも学生たちの元気な姿がもどり、大学らしさが戻って参りました。

私は令和３年度から２年間理事長を務めさせて頂きました。コロナ禍のため、在任中の理事会、副会長懇談会・部会長会はほぼオンラインで行いましたが、農工大OBの方々が日本全国各地で実に多種多様な形で地域社会に貢献されているのを知るにつけ、改めて自分が農工大の卒業生であることを誇りに思うことが多々ありました。また運営委員会を通じて、五味会長、戸田・野口副理事長、斎藤事務局長、運営委員、事務の方々の献身的な活動で同窓会が成り立っていることをつくづく実感した次第です。

部会長・支部長会では、支部総会への若手会員の参加が少ないとの声を多く聞きました。若いときは仕事や家族サービスで忙しく、同窓会活動に参画する時間を作るのが難しい面があるとは思いますが、若手を引き付ける方策についてアイデアを出し合い、活性化への工夫ができないものかと思料する次第です。部会・支部からの依頼に基づき、本部員を派遣して大学の近況報告などを行うことはこれまでも行ってきましたが、農工大の現役教員をお招きして、若手会員の興味を引きそうな最新の研究成果について講演して頂くなどもよいと思います（旅費は本部から支給します）。

ホームページのサイト「交流ラウンジ」を活用して、在学生、高校生、会員等にOBの活躍を広く発信していくのも、同窓会の活性化につながるでしょう。インタビューの動画を配信してもよいと思います。もちろん、在校生の活躍も宣伝したいですね。

本学は、来年創基150周年を迎えます。これを機に同窓会がますます発展されますよう祈念しつつ、退任のご挨拶とさせて頂きます。これからは一運営委員として微力ながら同窓会の発展に貢献したいと考えております。

一般社団法人東京農工大学同窓会 第５回定時総会

■日時：令和5年6月24日（土）13：00～14：10　■場所：小金井キャンパス
■総会出席者：97名　決議書提出者34名　合計131名

第５回定時総会は、６月24日（土）小金井キャンパス140周年記念会館で開催された。過去３回の定時総会はコロナ禍により縮小開催を余儀なくされたが、今回は４年ぶりに対面方式の通常開催となった。また、欠席者には事前の決議書の提出を可能とした。

議事に先立ち、五味会長から挨拶があり、来賓の千葉学長から「地球をまわす世界第一線の研究大学へ」と題する講演をいただいた。

定時総会の開催にあたって、戸田副理事長から定足数を満たしたとの報告があった後、議事に入った。

議事

審議事項１　議事録署名人選出の件

桑原理事長から、議事録署名人選出の件について説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、定款第20条により、五味会長と伊豆田代議員・有馬代議員が議事録署名人になった。

審議事項２　会長・副会長・理事及び監事選任の件

桑原理事長から、会長･副会長･理事及び監事の選任の件について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された※。

※選任された会長・副会長・理事及び監事は９ページの「同窓会役員等体制」を参照。

審議事項３　名誉会長の推挙の件

桑原理事長から、名誉会長の推挙の件について説明があり、審議の結果、原案どおり、栗原績氏（前同窓会長）を名誉会長に推挙することが承認された。

審議事項４　令和４年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件

報告事項１　令和４年度事業報告の件

報告事項２　令和４年度監査報告の件

上記案件は関連するため、一括して審議及び報告がなされた。

桑原理事長から、令和４年度貸借対照表【別記１】、正味財産増減計算書【別記２】、令和４年度事業報告【別記３】の説明があった。また、鈴木監事から令和４年度の監査報告があった。

審議の結果、審議事項４が承認され、報告事項１及び２が確認された。

報告事項３　令和５年度事業計画の件

桑原理事長から、令和５年度事業計画【別記４】について説明があり、これを確認した。

報告事項４　令和５年度収支予算の件

桑原理事長から、令和５年度収支予算【別記５】について説明があり、これを確認した。

【別記１】 貸借対照表　令和５年３月31日現在

一般社団法人　東京農工大学同窓会
一般会計

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
現金預金	58,203,126	51,802,486	6,400,640
資金諸口	0	0	0
現　　金	60,226	40,902	19,324
当座預金	21,959,893	33,909,518	△11,949,625
普通預金	36,183,007	17,852,066	18,330,941
定期預金	0	0	0
棚卸資産	0	0	0
仮 払 金	0	0	0
内部貸借	0	0	0
仮払消費税等	0	0	0
流動資産合計	58,203,126	51,802,486	6,400,640
２．固定資産			
(1)　基本財産			
定期預金	45,000,000	45,000,000	0
普通預金	770,500	770,500	0
投資有価証券	284,229,500	284,229,500	0
基本財産合計	330,000,000	330,000,000	0
(2)　特定資産			
八王子分収林育成林木	0	0	0
学生援助事業積立資産	124,345,129	129,582,813	△ 5,237,684
事業維持積立資産	0	0	0
退職給付引当資産	364,930	1,394,910	△ 1,029,980
特定資産合計	124,710,059	130,977,723	△ 6,267,664
(3)　その他固定資産			
什器備品	0	0	0
投資有価証券	0	0	0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	454,710,059	460,977,723	△ 6,267,664
資産合計	512,913,185	512,780,209	132,976

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
未 払 金	0	0	0
前 受 金	0	0	0
預 り 金	152,085	119,579	32,506
仮 受 金	0	0	0
賞与引当金	0	0	0
未払法人税等	0	0	0
仮受消費税等	0	0	0
未払消費税等	0	0	0
流動負債合計	152,085	119,579	32,506
２．固定負債			
退職給付引当金	364,930	1,394,910	△ 1,029,980
固定負債合計	364,930	1,394,910	△ 1,029,980
負債合計	517,015	1,514,489	△ 997,474
Ⅲ　正味財産の部			
１．指定正味財産			
寄附金	124,345,129	129,582,813	△ 5,237,684
指定正味財産合計	124,345,129	129,582,813	△ 5,237,684
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(124,345,129)	(129,582,813)	(△ 5,237,684)
２．一般正味財産	388,051,041	381,682,907	6,368,134
（うち基本財産への充当額）	(330,000,000)	(330,000,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	512,396,170	511,265,720	1,130,450
負債及び正味財産合計	512,913,185	512,780,209	132,976

【別記３】令和４年度事業報告

（１）第４回定時総会の開催

令和４年６月18日（土）府中キャンパスにて第４回定時総会を開催した。新型コロナウイルス感染症対策として、今回の定時総会は、議題を限定し近くにお住いの代議員10名で開催した。

上記以外の代議員は、あらかじめ通知された決議事項について書面又は電磁的方法を以て表決する方法で行った。

議事内容は、審議事項１: 議事録署名人選出（案）の件。審議事項２：定款変更（案）の件。審議事項３：令和３年度 貸借対照表（案）及び正味財産増減計算書（案）の件。報告事項①：令和３年度 事業報告の件。報告事項②：令和３年度 監査報告の件。審議事項４：選挙管理委員の選任の件。審議事項５：顧問の推挙の件。報告事項③：令和４年度 事業計画の件。報告事項④：令和４年度 収支予算の件。その他。

（２）令和４年度各種会議の開催

令和４年５月、11月及び令和５年３月に理事会を開催した。令和４年11月に副会長懇談会・部会長会及び支部長会を開催した。令和４年６月に部長会及び臨時支部長会をメール審議で開催した。

（３）同窓会組織の強化及び活性化

１）一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるように業務を進めた。

２）部会・支部・職域組織の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として「農工通信」を８月に発行した。また、同窓会のわかりやすい情報発信やさらなる会員交流の促進を図るべく来年度の開設を目指しホームページのリニューアルを行った。

３）こうほう支援室を中心に、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学生、高校生、会員等、学内外に広報するための取材活動を行い、その情報を発信するためのホームページのサイト「交流ラウンジ」を新たに設置した。

４）部会・支部からの依頼に基づき、支部総会等への本部員の派遣を行った。

５）部会・支部活動の活性化のための支援の方策等について部会長会及び支部長会で意見交換を行った。

６）卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料援助を継続して実施した。

７）同好会活動の充実に努めた。

８）入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のため、HP上でインターネットでの振込方法の案内を行った。

９）歳出削減に努めた。

（４）同窓会の課題及び今後の対応

１）学内外問わず、同窓会活動をご理解いただくため、同窓会紹介パンフレット（入学時及びペアレンツデーにて配布）及び同窓会WEBによるPR活動を行った。

２）分収林返還後の八王子市有林に記念碑等を設置することについて、八王子市役所との協議を行った。

３）農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行った。

４）祝電・弔電により祝意・弔意を表した。

（５）準会員に対する援助、新入正会員歓迎行事の継続実施

大学と協力しながら就活セミナー等の開催や同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援の援助等をすることで、同窓生となる準会員（学生）に対して就職支援等を行った。

準会員の勉学・学生生活に関して、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝い、学会誌・論文誌発表等援助、優秀卒論副賞等の援助、学園祭・課外活動の援助を行った。また、卒業・修了学生に対して、卒業・修了証書カバーの贈呈を行った。

（６）その他

１）改組に伴う部会の組織編成のあり方について部会長会等で検討を行い、当面の部会構成の取扱いが承認された。

２）校歌・寮歌のホームページ上での紹介を行った。

３）総会代議員選挙を実施した。

【別記2】 正味財産増減計算書

令和４年４月１日から令和５年３月31日まで

一般社団法人　東京農工大学同窓会
一般会計

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
１．経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	[1,240,849]	[1,376,054]	[△ 135,205]
基本財産受取利息	1,240,849	1,094,300	146,549
基本財産売却益	0	281,754	△ 281,754
特定資産運用益	[0]	[0]	[0]
特定資産運用益	0	0	0
運用財産収入	[32,767,636]	[36,134,495]	[△ 3,366,859]
入会金	3,875,000	4,120,000	△ 245,000
年会費	531,500	760,500	△ 229,000
終身会費	1,850,000	4,020,000	△ 2,170,000
賛助会費	23,130,000	24,580,000	△ 1,450,000
利息	396	262	134
寄附金	217,000	179,500	37,500
雑収入	3,163,740	2,474,233	689,507
受取寄附金振替額	[5,237,684]	[5,338,731]	[△ 101,047]
繰 入 金	[0]	[0]	[0]
経常収益計	39,246,169	42,849,280	△ 3,603,111
（2）経常費用			
運用財産支出	[24,051,353]	[28,827,371]	[△ 4,776,018]
事業費	(11,270,462)	(15,204,735)	(△ 3,934,273)
動静調査費	313,355	759,784	△ 446,429
会報発行費	5,312,045	9,873,128	△ 4,561,083
ＨＰ管理作成費	785,730	93,170	692,560
部会・支部活動費	3,370,800	3,099,400	271,400
母校援助費	0	0	0
卒業生援助費	1,240,182	1,140,690	99,492
同窓会の森管理費	7,890	0	7,890
資料整備費	240,460	238,563	1,897
減価償却費	0	0	0
会議費	(1,227,147)	(925,381)	(301,766)
総会会議費	73,240	35,150	38,090
副会長懇談会（部会長会）会議費	34,980	45,210	△ 10,230
運営委員会会議費	4,588	5,598	△ 1,010
理事会会議費	208,819	111,591	97,228
支部長会会議費	905,520	727,832	177,688
管理費	(11,553,744)	(12,697,255)	(△ 1,143,511)
人件費	6,904,372	6,796,027	108,345
社会保険料等	1,277,438	955,177	322,261
備品費	0	0	0
消耗品費	24,554	316,341	△ 291,787
複写機トータルサービス料	530,280	588,984	△ 58,704
通信費	193,024	187,545	5,479
旅費	305,394	145,680	159,714
事務用品印刷費	0	0	0
慶弔費	51,004	39,456	11,548
光熱水費	149,935	104,170	45,765
職員厚生費	6,000	24,000	△ 18,000
退職給付費用	250,000	250,000	0
振込手数料	278,082	345,120	△ 67,038
租税公課	270,687	237,622	33,065
寄附金	0	0	0
その他雑費	1,312,974	2,707,133	△ 1,394,159
減価償却費	0	0	0
予備費	0	0	0
繰入金	[0]	[0]	[0]
特定目的事業財産支出	[8,826,682]	[6,355,641]	[2,471,041]
八王子分収林育成事業費	0	0	0
周年記念事業費	0	0	0
学生援助事業費	5,237,684	5,338,731	△ 101,047
被災会員支援事業費	960,000	0	960,000
こうほう支援室事業費	2,628,998	0	2,628,998
図書等刊行事業費	0	0	0
その他本財産に適合する事業費	0	1,016,910	△ 1,016,910
経常費用計	32,878,035	35,183,012	△ 2,304,977
評価損益等調整前当期経常増減額	6,368,134	7,666,268	△ 1,298,134
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	6,368,134	7,666,268	△ 1,298,134
２．経常外増減の部			
（1）経常外収益			
受取寄附金振替額	[0]	[0]	[0]
経常外収益計	0	0	0
（2）経常外費用			
分収林除却損	[0]	[0]	[0]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	6,368,134	7,666,268	△ 1,298,134
一般正味財産期首残高	381,682,907	374,016,639	7,666,268
一般正味財産期末残高	388,051,041	381,682,907	6,368,134
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄附金	[0]	[921,544]	[△ 921,544]
八王子分収林育成林木	[0]	[0]	[0]
一般正味財産への振替額	[△ 5,237,684]	[△ 5,338,731]	[101,047]
受取寄附金	△ 5,237,684	△ 5,338,731	101,047
八王子分収林	0	0	0
当期指定正味財産増減額	△ 5,237,684	△ 4,417,187	△ 820,497
指定正味財産期首残高	129,582,813	134,000,000	△ 4,417,187
指定正味財産期末残高	124,345,129	129,582,813	△ 5,237,684
Ⅲ　正味財産期末残高	512,396,170	511,265,720	1,130,450

【別記４】令和５年度事業計画

（１）第５回定時総会の開催

令和５年６月24日（土）小金井キャンパスにて第５回定時総会を開催する。

議事内容は、審議事項１: 議事録署名人選出の件。審議事項２：会長、副会長、理事及び監事選任の件。審議事項３：名誉会長推挙の件。審議事項４：令和４年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件。報告事項１：令和４年度事業報告の件。報告事項２：令和４年度監査報告の件。報告事項３：令和５年度事業計画の件。報告事項４：令和５年度収支予算の件。その他の件。

（２）令和５年度各種会議の開催

令和５年５月、11月及び令和６年３月に理事会を開催する。令和５年11月に副会長懇談会・部会長会を開催する。

（３）同窓会組織の強化及び活性化

１）一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるようにするため、規則の見直しや財政運営の検討を行う。

２）部会・支部・職域組織の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として、引き続き同窓会会報「農工通信」を発行するとともに、同窓会ホームページをリニューアルし各種情報発信の充実を図る。

３）こうほう支援室の事業として、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学生、高校生、会員等、学内外に広報するための取材活動を行う。

４）学内外問わず、同窓会活動を理解いただくよう、同窓会紹介パンフレット（入学時及びペアレンツデーにて配布）及び同窓会WEBによるPR活動に努める。

５）部会・支部の要請に応じ、運営委員等本部員の派遣を行い、同窓会本部との交流を図る。

６）部会・支部活動の活性化のための支援の方策を検討する。

７）卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料を援助する。

８）同好会活動の充実に努める。

９）部会・支部のホームページ立ち上げに協力する。

10）入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のための方策を検討する。

11）歳出削減に努める。

12）農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行う。

13）祝電・弔電により祝意・弔意を表する。また、本会の発展に顕著な功績があった者に感謝状を贈呈する。

（４）準会員に対する援助事業の実施

大学と協力しながら同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援の援助等をすることで、同窓生となる準会員（学生）に対して、就職支援等の充実を図る。

準会員の勉学･学生生活に関して、学会･コンテスト･コンクール等の発表･入賞祝い、学会誌･論文誌発表等援助、優秀卒論副賞等の援助、学園祭・課外活動の援助及び卒業・修了証書カバーの贈呈を行う。

（５）その他

１）東京農工大学創基150周年事業準備等に同窓会として協力する。

２）分収林返還後の八王子市有林に記念碑もしくはこれに代わるものを設置することについて八王子市と協議する。併せて当該分収林に関する歴史などを同窓会HPに掲載する。

【別記5】 令和5年度収支予算

（単位：円）

区分	細分	項　　目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差　異	予算積算の考え方
基本財産	収入	基本財産（前年度繰越金）	330,000,000	330,000,000	0	
		余剰金からの繰入（30%超える分）	0	0	0	
		上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0	
		収入合計	330,000,000	330,000,000	0	
	支出	他の財産へ繰出し	0	0	0	
		支出合計	0	0	0	
	基本財産残高		330,000,000	330,000,000	0	
運用財産	収入	前年度繰越金	44,000,000	27,976,152	16,023,848	繰越見込額
		入会金	4,000,000	3,500,000	500,000	実績ベース 5000円×800人
		年会費	600,000	800,000	△ 200,000	実績ベース
		終身会費	2,000,000	2,000,000	0	前年度実績から逓減傾向考慮
		賛助会費	24,000,000	20,000,000	4,000,000	実績ベース　30000円×800人
		利息	1,000	1,000	0	実績ベース
		寄附金	1,000	1,000	0	前年度予算と同額
		雑収入	500,000	2,200,000	△ 1,700,000	農工通信広告収入等
		基本財産運用益	1,200,000	900,000	300,000	利付国債利息収入見込等
		収入合計	76,302,000	57,378,152	18,923,848	
	支出	事業費計	16,500,000	14,900,000	1,600,000	
		動静調査等管理費	600,000	600,000	0	動静はがき郵便料等　前年同
		会報発行費	6,000,000	5,000,000	1,000,000	農工通信104号発行費用　見込額
		ＨＰ管理作成費	500,000	1,100,000	△ 600,000	HP維持管理費
		こうほう支援室事業費	1,200,000		1,200,000	所要額積算（人件費、関連雑費等）
		部会・支部活動費	6,300,000	6,300,000	0	前年度予算と同額
		卒業生援助費	1,300,000	1,300,000	0	卒業修了証書カバー、証明書発行手数料補助等
		同窓会の森管理費	300,000	300,000	0	前年度予算と同額
		資料整備費	300,000	300,000	0	パンフレット、リーフレット印刷費等（前年同）
		会議費計	4,900,000	6,500,000	△ 1,600,000	
		総会会議費	4,000,000	4,000,000	0	会議出席旅費等（前年同）
		副会長懇談会(部会長会)会議費	200,000	200,000	0	会議出席旅費等（前年同）
		運営委員会会議費	100,000	100,000	0	会議出席旅費等（前年同）
		理事会会議費	600,000	600,000	0	会議出席旅費等（前年同）
		支部長会会議費	0	1,600,000	△ 1,600,000	隔年開催。今期は開催しないため予算計上なし。
		管理費計	18,630,000	35,978,152	△ 17,348,152	
		人件費	7,800,000	7,800,000	0	職員給与（前年度予算と同額）
		社会保険料等	1,300,000	950,000	350,000	事業主負担保険料（前年度実績ベース）
		備品費	200,000	200,000	0	前年度予算と同額
		消耗品費	500,000	500,000	0	前年度予算と同額
		複写機トータルサービス料	600,000	1,000,000	△ 400,000	会議資料等コピー料金(実績ベース)
		通信費	250,000	250,000	0	電話料、宅配代金等（前年度予算と同額）
		旅費	1,700,000	1,700,000	0	前年度予算と同額（支部派遣旅費等）
		事務用品印刷費	70,000	70,000	0	前年度予算と同額
		慶弔費	50,000	50,000	0	前年度予算と同額
		光熱水費	230,000	120,000	110,000	料金値上分加算150000×1.5
		職員厚生費	30,000	30,000	0	職員健康診断費用補助（前年度予算と同額）
		退職給付費用	250,000	250,000	0	退職手当引当金（前年度予算と同額）
		振込手数料	350,000	350,000	0	前年度予算と同額
		租税公課	300,000	200,000	100,000	法人税等（実績ベース）
		その他雑費	5,000,000	22,508,152	△ 17,508,152	システム保守料、監査法人指導料等
		予備費	0	0	0	
		支出合計	40,030,000	57,378,152	△ 17,348,152	
	運用財産残高		36,272,000	0	36,272,000	次年度繰越見込（収入予算－支出予算）
特定目的事業財産	収入	前年度繰越金	140,000,000	144,662,983	△ 4,662,983	繰越見込額
		余剰金からの繰入（30%超える分）	0	2,500,000	△ 2,500,000	
		上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0	
		収入合計	140,000,000	147,162,983	△ 7,162,983	
	支出	学生援助事業費	7,000,000	7,000,000	0	前年度予算と同額
		被災会員支援事業費	1,000,000	1,000,000	0	前年度予算と同額
		こうほう支援室事業費	0	2,500,000	△ 2,500,000	運用財産の部へ移動
		その他本財産に適合する事業費	1,000,000	1,000,000	0	
		支出合計	9,000,000	11,500,000	△ 2,500,000	
	特定目的事業財産残高		131,000,000	135,662,983	△ 4,662,983	
合　計			497,272,000	465,662,983	31,609,017	
退職給付費用引当資産	収入	前年度繰越金	364,930	1,714,310	△ 1,349,380	
		運用財産からの繰り入れ	250,000	250,000	0	
		収入合計	614,930	1,964,310	△ 1,349,380	
	支出	退職手当給付金	0	1,279,980	△ 1,279,980	
		支出合計	0	1,279,980	△ 1,279,980	
	退職給付費用引当資産合計		614,930	684,330	△ 69,400	
総　合　計			497,886,930	466,347,313	31,539,617	

同窓会役員等体制・支部長 及び 連絡員表

同窓会役員等体制（第５回定時総会終了時～第７回定時総会）

会　長

五味　　勝（電子Ｓ54）

副会長

内藤　廣信（農学Ｓ41）	農学・生物生産学部会
安藤　俊幸（蚕糸Ｓ49）	蚕糸生物学部会
仲井まどか（植防Ｓ62）	植防・応用生物学部会
田中　智章（農化Ｓ60）	農芸化学・応用生命化学部会
近江　正陽（林産Ｓ60）	林産・生物資源工学部会
伊豆田　猛（環保Ｓ59）	環境科学部会
本山　芳裕（林学Ｓ48）	林学部会
大里　耕司（農工Ｓ52）	生産環境工学部会
小池　伸介（地生Ｈ13）	地域生態システム学部会
田谷　一善（獣医Ｓ46）	獣医学部会
大塚　克巳（製糸Ｓ45）	製糸・高分子・生命工学部会
千田　　武（繊工Ｓ46）	繊維・有機材料部会
高野　文夫（化工Ｓ51）	化学工学部会
前川　佳博（工化Ｓ48）	応用分子化学部会
澤田　孚夫（機械Ｓ40）	機械システム工学部会
竹村　　淳（電子Ｈ３）	電気電子工学部会
伊東　　浩（応物Ｓ52）	物理システム工学部会
加藤　美治（ＭＯＴ Ｈ21）	ＭＯＴ部会
二見　能資（生シ博Ｈ17）	ＢＡＳＥ部会
船田　　良（連農Ｓ63）	連合農学部会

理　事

理事長	戸田　浩人（林学Ｓ59）
副理事長	野口　恵一（材料Ｈ１）
副理事長	大川泰一郎（農学Ｓ62）
理　事	内藤　廣信（農学Ｓ41）
〃	安藤　俊幸（蚕糸Ｓ49）
〃	本山　芳裕（林学Ｓ48）
〃	千田　　武（繊工Ｓ46）
〃	高野　文夫（化工Ｓ51）
〃	加藤　美治（ＭＯＴＨ21）
〃	河野　　訣（獣医Ｓ45）
〃	南木　好樹（農工Ｓ58）
〃	栗原　　知（林学Ｓ47）
〃	松井　　崇（農工Ｓ51）
〃	三宅　信行（環保Ｓ55）
〃	寺峰　　孜（養蚕Ｓ45）

監　事

加藤　　誠（農工Ｓ44）
鈴木　創三（農学Ｓ47）

運営委員

総務部長	桑原　利彦（生機Ｓ57）
副部長	田中　　剛（物生Ｈ７）
副部長	金田　正弘（獣医Ｈ12）
事業部長	赤井　伸行（環資Ｈ11）
副部長	岡本　昭子（応化Ｈ15）
経理部長	斉藤美佳子（工化Ｈ１）
副部長	水川　薫子（環資Ｈ18）
広報･情報部長	村上　　尚（応化Ｈ12）
副部長	滝山　博志（化工Ｓ62）
副部長	岡田　洋平（応生Ｈ19）

同窓会支部長及び連絡員（令和５年７月１日現在）

支部名	支部長名	連絡員名
北海道	荒木　和秋（農学S50）	本間　　聡（地生H20）
青　森	大橋　統州（農学S54）	白石　一志（農学H4）
秋　田	倉部　明彦（農工S57）	畠山　欣也（環・資H8）
岩　手	深澤　　光（林学S56）	小澤　　結（環資H11）
山　形	河野　　訣（獣医S45）	川崎　聡明（生産H9）
宮　城	鈴木　正彦（林学S57）	大類　清和（林学H2）
福　島	荒井　賢治（農工S47）	三森　　裕（生産H13）
茨　城	川野　和彦（林学S50）	磯邉　晋吾（林学S62）
栃　木	南木　好樹（農工S58）	篠崎　　敦（生産H18）
群　馬	山本　　明（農工S45）	影澤　圭太（林産H3）
埼　玉	金本　伸郎（農学S51）	竹詰　　一（農学H2）
千　葉	伊藤　道男（林学S48）	津金　胤昭（応生H6）
東　京	栗原　　知（林学S47）	栗原　　知（林学S47）
神奈川	真子　正史（農学S41）	小野　　浩（農工S63）
新　潟	矢澤　正宏（農工S44）	村山　康則（農学H3）
富　山	小杉　啓一（林学S54）	飯野　　師（地生H18）
石　川	坂口浩一郎（林学S58）	濱崎　貴史（環資H15）
福　井	野坂　雄二（農工S53）	新海　隆介（環・資H12）
山　梨	眞浦　正徳（養蚕S46）	小松澤　靖（林学H2）
長　野	相馬　正博（農学S53）	小板橋晴之（地生H19）
岐　阜	工藤　正弘（繊工S44）	雨宮　功治（植防S60）
静　岡	杉山　嘉英（林学S52）	土屋　雄人（応生H20）
愛　知	瀧上　紀吉（機械S41）	山口　知幸（農学H4）
三　重	古野　　優（獣医S60）	西野　　実（生産H7）

支部名	支部長名	連絡員名
大　阪	佐々木良和（農工S39）	中野　　淳（機械S60）
京　都	松井　　崇（農工S51）	平野　孝志（農工S53）
滋　賀	川島　長治（農学S39）	鈴木　一成（地生H25）
奈　良	山本　治幸（電気S54）	岩治　　新（地生H20）
和歌山	中尾　俊二（林学S53）	森本　唯史（地生H16）
兵　庫	上坂　修一（林産S54）	安徳　剛志（林学S59）
岡　山	渡邊　直人（林学Ｓ50）	佐野　大樹（生産院H16）
広　島	三宅　信行（環保S55）	石田　一之（機械S59）
山　口	松村　　聰（工化S46）	岡本　賢一（植防H4）
鳥　取	江原　宏昭（農学院S48）	門脇　　亙（製糸S54）
島　根	桑本　幸夫（林産S56）	松浦　史瑞（林産H1）
香　川	鳥取　康治（繊高S51）	遠藤　克彰（機ｼｽH24）
徳　島	長谷川　進（工化S47）	小杉純一郎（林学S63）
高　知	寺峰　　孜（養蚕S45）	豊田　陽一（蚕糸S57）
愛　媛	池上　正彦（蚕糸S52）	尾中　直道（環・資H7）
福　岡	後藤　　卓（林産S50）	平島　亮介（生産H13）
佐　賀	御厨　秀樹（植防S56）	御厨　秀樹（植防S56）
長　崎	古賀　淳士（農学S52）	大内　直史（農学S62）
熊　本	田中　良典（植防S51）	永山　裕治（環保H1）
大　分	板井　　隆（農学S52）	川ノ上　実（生産H12）
宮　崎	森　　房光（林学S53）	川越　研太（機ｼｽH23）
鹿児島	二俣　文夫（農工S45）	長谷川信幸（製糸S54）
沖　縄	糸数　　剛（農工S45）	花城　　薫（林産H3）
横浜会	草野　洋一（養蚕S47）	松島　　稔（製糸S37）

部会代議員〔任期：選出時（令和4年10月20日）から次回改選時（2年後）まで〕

【部会関係者】

推薦母体	氏名（部会長枠）	氏名（一般）					
部会長会	五味　勝（電子S54）						
農学・生物生産学部会	内藤　廣信（農学S41）	板橋　久雄（農学S39）	早川　潔（農学S41）	南波　利昭（農学S46）	横山　正（農学S53）	滝沢　将史（生産H8）	
蚕糸生物学部会	安藤　俊幸（蚕糸S49）	菊池　雅美（蚕糸S56）					
植防・応用生物学部会	仲井まどか（植防S62）	安藤　哲（植防S47）	國見　裕久（養蚕S48）				
農芸化学・応用生命化学部会	田中　智章（農化S60）	井口　秀樹（農化S60）	加納　優子（農化S62）	染谷　健児（農化H5）	若松　弘起（応生H25）		
林産・生物資源工学部会	近江　正陽（林産S60）	安藤　恵介（林産H2）	吉田　誠（環資H12）	半　智史（環物院H18）			
環境科学部会	伊豆田　猛（環保S59）	多羅尾光徳（環保H3）	渡邊　誠（環資H11）	黒岩　恵（環資H22）			
林学部会	本山　芳裕（林学S48）	難波　伸幸（林学S49）	塚原　道夫（林学S51）	淡中　克巳（林学S59）			
生産環境工学部会	大里　耕司（農工S52）	鈴木　尚登（農工S55）	帖佐　直（農工H4）				
地域生態システム学部会	小池　伸介（地生H13）	山口　泰民（地生H12）	八色　宏昌（地生H12）	大倉　茂（地生H19）	深井　敬哲（地生H20）		
獣医学部会	田谷　一善（獣医S46）	津曲　公夫（獣医S43）	木島まゆみ（獣医S58）	川口真以子（獣医H9）			
製糸・高分子・生命工学部会	大塚　克巳（製糸S45）	花輪　正明（製糸S46）	中島　健一（製糸S58）	近藤　幹也（製糸S58）	山田　晃世（高工H4）	熊澤志津子（高工H4）	
繊維・有機材料部会	千田　武（繊工S46）	岩島　寛（繊工S33）	壁矢　久良（繊工S35）	原島　朝雄（繊工S49）			
化学工学部会	高野　文夫（化工S51）	板垣　和雄（化工S48）	紫垣　由城（化工S52）	加藤　之貴（化工S60）			
応用分子化学部会	前川　佳博（工化S48）	甕　秀麿（工化S39）	伊王野耕二（工化S39）	遠藤　幸一（工化S46）	平野　正雄（工化S48）	太田　克朗（工化S50）	
機械システム工学部会	澤田　孚夫（機械S40）	今成　昌文（機械S57）	大谷　幸利（機シスS62）	武藤　篤生（機シスH1）	北村　光（機械H2）	中村　秀一（機シスH2）	渡邉　力夫（機シスH5）
		西澤　宇一（機シスH12）	伊藤　幸弘（機シスH14）	山本　将之（機シス博H14）	太田　亨（機シスH14）	福田　歩（機シスH16）	
電気電子工学部会	竹村　淳（電子H3）	有馬　卓司（電情H10）					
物理システム工学部会	伊東　浩（応物S52）	水野　隆司（応物S46）	関根　朝次（応物S47）	佐伯　尚文（応物S49）			
ＭＯＴ部会	加藤　美治（ＭＯＴ H21）	野地　英昭（ＭＯＴ H20）					
ＢＡＳＥ部会	二見　能資（生シ博H17）	赤井　伸行（生シ博H16）	岡村　拓弥（生シ院H29）	市原凜太郎（生シ院H29）			
連合農学部会	船田　良（連農S63）	野村　義宏（連農H2）					

支部・立候補代議員〔任期：選出時（令和4年10月20日）から次回改選時（2年後）まで〕

【支部関係者】

推薦母体	氏名（支部長枠）	氏名（一般）
北海道	荒木　和秋　（農学S50）	濱口　大志　（農工H2）
青　森	大橋　統州　（農学S54）	楠美　祥行　（電子S58）
秋　田	倉部　明彦　（農工S57）	舛谷　雅広　（農工S61）
岩　手	深澤　光　（林学S56）	藤原　哲雄　（農学S60）
山　形	河野　誠　（獣医S45）	大嶋　博之　（植防S60）
宮　城	鈴木　正彦　（林学S57）	相澤　孝夫　（林学院S58）
福　島	荒井　賢治　（農工S47）	目黒　友　（蚕糸S53）
茨　城	川野　和彦　（林学S50）	水庭　博　（林学S49）
栃　木	南木　好樹　（農工S58）	牧　佳輝　（獣医S41）
群　馬	山本　明　（農工S45）	藤井　昇　（蚕糸S51）
埼　玉	金本　伸郎　（農学S51）	山永　高男　（植防S53）
千　葉	伊藤　道男　（林学S48）	家壽多正樹　（農学S59）
東　京	栗原　知　（林学S47）	尊田　京子　（農学H2）
神奈川	真子　正史　（農学S41）	中村　寛也　（環保S61）
新　潟	矢澤　正宏　（農工S44）	宮里　圭一　（農工S53）
富　山	小杉　啓一　（林学S54）	大川内康郎　（生産H6）
石　川	坂口浩一郎　（林学S58）	天井　滋則　（林産S60）
福　井	野坂　雄二　（農工S53）	小堀　健司　（農工S62）
山　梨	眞浦　正徳　（養蚕S46）	伴野　直明　（林学S60）
長　野	相馬　正博　（農学S53）	飯島　好文　（農工S59）
岐　阜	工藤　正弘　（繊工S44）	雨宮　功治　（植防S60）
静　岡	杉山　嘉英　（林学S52）	天野　弘　（獣医S53）
愛　知	瀧上　紀吉　（機械S41）	瀧川　桂三　（林学S41）
三　重	古野　優　（獣医S60）	西野　実　（生産H7）

推薦母体	氏名（支部長枠）	氏名（一般）
大　阪	佐々木良和　（農工S39）	森田　成昭　（機シスH8）
京　都	松井　崇　（農工S51）	平野　孝志　（農工S53）
滋　賀	川島　長治　（農学S39）	南井　隆　（林学H1）
奈　良	山本　治幸　（電気S54）	宮本　大輔　（農学H2）
和歌山	毛呂　眞　（林学S41）	中尾　俊二　（林学S53）
兵　庫	上坂　修一　（林産S54）	石田あずさ　（農工H4）
岡　山	渡邊　直人　（林学S50）	佐野　大樹　（生産院H16）
広　島	三宅　信行　（環保S55）	石田　一之　（機械S59）
山　口	松村　聰　（工化S46）	馬場　崇史　（分子H27）
鳥　取	江原　宏昭　（農学院S48）	門脇　亙　（製糸S54）
島　根	松浦　史瑞　（林産H1）	中島　敬　（農工H4）
香　川	鳥取　康治　（繊高S51）	遠藤　克彰　（機シスH24）
徳　島	長谷川　進　（工化S47）	小杉純一郎　（林学S63）
高　知	寺峰　孜　（養蚕S45）	豊田　陽一　（蚕糸S57）
愛　媛	池上　正彦　（蚕糸S52）	鋤先　孝一　（環保S52）
福　岡	後藤　卓　（林産S50）	白石　哲広　（林産S50）
佐　賀	御厨　秀樹　（植防S56）	狩又　亮治　（生産H24）
長　崎	古賀　淳士　（農学S52）	大内　直史　（農学S62）
熊　本	田中　良典　（植防S51）	堀　洋一　（繊高S51）
大　分	松久　房義　（蚕糸S50）	永野　和範　（農工S63）
宮　崎	森　房光　（林学S53）	山本　泰嗣　（農学S57）
鹿児島	二俣　文生　（農工S45）	平　繁人　（養蚕S45）
沖　縄	糸数　剛　（農工S45）	
横浜会	草野　洋一　（養蚕S47）	

【立候補者】

推薦母体	氏名（一般）
立候補	住本　敏泰　（電気S61）

令和４年度　同窓会学生援助事業報告

同窓会学生援助事業では、在学生（準会員）の学会発表、コンテスト・コンクールへの出場、優秀卒業論文、種々の課外活動、学園祭に対して「同窓会研究課外活動奨励賞」および副賞を授与しています。

この事業は、会員の皆様から納入いただいた同窓会費（終身会費・年会費）や入学時に納入いただいた入会金・賛助会費により運営しております。令和４年度の援助総額は3,546,370円でした。ここにご報告させていただきますとともに、厚くお礼申し上げます。

今後とも母校援助にご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事　項	件　数	金　額
学会発表 ＜参加・出場＞	168名	840,000円
学会発表 ＜入賞＞	40名	200,000円
コンテスト・コンクール ＜出場＞	1名16団体	165,000円
コンテスト・コンクール ＜入賞＞	1名18団体	95,000円
学会誌・論文誌発表	1件	15,000円
優秀卒業論文	8学科	80,000円
課外活動 ＜学園祭＞	1件	100,000円
課外活動 ＜サークル活動＞	20件	1,000,000円
課外活動 ＜リーダーストレーニング＞	1件	50,000円
キャリアアドバイザー支援	2名	120,000円
卒業・修了証書カバー支給	1,650名	881,370円
合　計		3,546,370円

※詳細については、同窓会ホームページ（https://tuat-dousoukai.org/student/）をご覧ください

＝令和４年度「同窓会学生援助事業 研究課外活動奨励賞」受賞者のコメント＝

森住　春香さん　連合農学研究科１年

この度は、研究課外活動の奨励賞を頂き感謝しております。

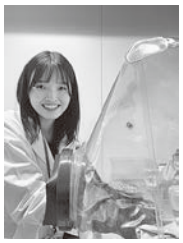
今回European Journal of Organic Chemistry誌に、筆頭著者として「Stereoselective Production of Imino-D-ribitol and C-Azanucleosides via Electrochemical C–H Functionalization」という表題にて論文を発表しました。本研究では次世代の医薬品として注目されているアザヌクレオシドの立体選択的な合成法の開発に取り組み、ペンチリデン保護基を導入することにより高い立体選択性を実現しました。本論文がVery Important Paperに選定されたことで、同窓会より学会誌・論文誌発表の部で表彰いただきました。

指導教員の北野克和先生をはじめ、研究室の皆様、また同窓会の支えがあってこそ、このような研究成果を発表することができました。このご支援を励みとして、今後も有機電解化学分野の発展に微力ながら貢献できるよう、研究活動に励んでまいります。

津久井　桃菜さん　生命工学専攻２年

この度は、同窓会の学生援助事業にて奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。

私は、「2022年度日本生化学会関東支部例会」において、「腸内細菌が行動に与える影響の評価」という演題で発表を行い、優秀発表賞を受賞いたしました。この研究は、腸内環境を変えることで、現在治療が困難な疾患の治療を行うことを目指したもので、微力ながらこの分野に寄与できていることに大変嬉しく思っております。



ご指導くださいました国立精神・神経医療研究センターの皆様や、いつも支えてくれた家族と友人、そしてご支援くださいました同窓会の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。皆様のおかげで、このような成果を収めることができました。今後も皆様に少しでもご恩返しができますよう研鑽を続け、精進してまいります。

お知らせ

学生援助事業（後期）募集：令和５年12月15日～令和６年１月19日（HPでご案内します）。

応募条件　本学に在籍中の学部学生または大学院学生で、下記の１または２に該当する場合に応募できます

１.入学時に保護者が賛助会費を納入した者（保護者が賛助会員）

２.終身会費または年会費を納入した者（本人が正会員）

※会費未納の方は申請書受付期間内に納入してください

会員種別は、住所ラベルに「賛助会員」「正会員」等記載されております。申請時にはご確認ください。

部会・支部・同好会・クラス会だより

部会・支部・同好会・クラス会だよりの最新情報は、同窓会ホームページに随時掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

部会だより

ご所属の部会は、卒業（修了）時の学科に基づいております。HP「部会・支部総会日程」の下の「部会一覧表」を参照下さい。

生産環境工学部会

日　　時　令和４年９月10日（土）
開 催 場 所　50周年記念ホール（オンライン併用）
本 部 派 遣　池谷　紀夫　同窓会事務局員
参 加 人 数　36名
実 施 事 項　2022年総会
幹事・報告者　帖佐　直（農工H４）

＜幹事のコメント＞

コロナの収束を願いつつ、対面とオンラインとのハイブリッドでの開催に漕ぎ着けることができました。半数はオンラインでの参加でしたが、オンラインだからこそ参加できたという方もあり、議案の審議のみであればオンラインの活用も悪くないとう印象も感じました。残念ながら総会後の懇親会の実現までには至りませんでしたが、役員の改選、会則の改定など、今後の部会の運営について意見交換し、議論を深めることができました。

総会の決議を含む詳細については、部会ウェブサイトに掲載しています。

部会ウェブサイト：http://tuat-seisanko.org/

獣医学部会

日　　時　令和４年６月１日（水）～８月10日（水）
開 催 場 所　書面総会
（獣医学部会便り98号に案内し審議した）
参 加 人 数　152名
実 施 事 項　議題１：令和3年度獣医学部会事業報告並びに収支決算（案）及び監査について
議題２：令和４年度獣医学部会事業計画並びに収支予算（案）について
上記の議案（詳細は添付資料ご参照）についての賛成・反対の回答を書面にて得た。
昭和23年卒から令和４年卒までの幅広い層から回答を得た。
幹事・報告者　金田　正弘（獣医H12）

支部だより

令和４年度の支部活動報告です。誌面の都合上、実施事項・総会議題等の詳細は、同窓会ホームページ「支部だより」に全文掲載しております。

北海道支部

日　　時　令和４年12月11日（日）
開 催 場 所　ネストホテル札幌駅前（ＷＥＢ形式併用）
本 部 派 遣　野口　恵一　先生
参 加 人 数　18名（うち、WEB参加５名）
実 施 事 項　令和４年度　北海道支部総会
幹事・報告者　本間　聡（地生H20）

＜幹事のコメント＞

令和元年以来の会場開催が実現するとともに、会場参加とＷＥＢ参加の併用によるハイブリッド開催となりました。

総会では、事業報告や次年度の計画案が了承された後、支部細則の改正や支部役員の改選について承諾を得ました。その後、来賓の野口先生より、母校の近況、先生の研究内容についてご講義いただきました。

懇親会では、会場参加者だけでなく、会場の札幌から離れたところに居住している会員からも近況報告を受けることができ、充実した会となりました。

茨城県支部

日　　時　令和４年11月26日（土）
開 催 場 所　レイクビュー水戸
本 部 派 遣　戸田　浩人　先生
参 加 人 数　25名
実 施 事 項　第25回茨城県支部総会
幹事・報告者　磯邉　晋吾（林学S62）

＜幹事のコメント＞

茨城支部は１年おきに総会を開催していますが、コロナ禍により今回は３年ぶりの開催でした。

戸田浩人教授から、母校の近況や東京農工大学基金の説明などを含めたご祝辞をいただきました。前回より参加人数が少なめでしたが、３年ぶりの再会に、参加者は旧交を温めていました。

次回は、令和６年秋期に開催予定です。農工両学部から多数の同窓生の御参加をお待ちしております。

埼玉県支部

日　　時　令和５年１月18日（水）
開 催 場 所　さいたま市　満寿家
参 加 人 数　４名
実 施 事 項　令和４年度　埼玉県支部総会
幹事・報告者　竹詰　一（農学Ｈ２）

＜幹事のコメント＞
今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、参集範囲を縮小したため、出席者は４名となりました。
総会では、令和３年度事業報告並びに決算報告、令和４年度事業計画並びに予算案について審議され承認されました。
また、埼玉県支部の活動方法、会員への周知方法等についても検討しました。

千葉県支部

日　　時　令和４年９月30日（金）
参 加 人 数　70名
実 施 事 項　第29回千葉県支部総会（書面開催）
幹事・報告者　津金　胤昭（応生Ｈ６）

＜幹事のコメント＞
千葉県支部の総会はこれまで２年ごとに開催してきました。本来であれば令和２年に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの流行があり令和２～３年の開催を見送らざるを得ませんでした。令和４年度は対面での総会開催を目指して準備をすすめましたが、開催時期を前に新型コロナウイルス感染者数が増加傾向となったため、対面での開催を断念し書面開催とすることになりました。次回は令和６年に対面での開催を予定しています。同窓生のみなさんとの再会を楽しみにしております。

東京都支部

日　　時　令和４年６月25日（土）
開 催 場 所　「ZOOM」を活用してのオンラインミーティング
本 部 派 遣　齋藤　徳彦　同窓会事務局長
参 加 人 数　16名
実 施 事 項　東京都支部総会
幹事・報告者　栗原　知（林学S47）

＜幹事のコメント＞
支部長による2022年度活動方針
・同窓会東京都支部は単なる懇親会の場ではなく、母校への支援及び新たな同窓生間のネットワーク作りを企図したい。
・東京都支部ホームページを充実させる。
・昨年度から様々な場面で活躍中の同窓生の紹介を掲載している。今後も同窓生との接点（窓口）としての存在を目指す。
・昨年度に引き続き、オンラインでの隔月例会を開催する。
支部長の総括
COVID-19の影響で昨年度に引き続き「ZOOMを活用してON LINE」での２度目の支部総会を開催。16名の参加がありました（昨年度は10名参加）。
参加者数の増加は支部会員の方々の努力の結晶だと感謝します。今後も草の根活動で徐々に参加者が増加することを祈念します。
会合では、今後の支部の在り方、支部員の連絡先の拡充の方法、ホームページの充実などで活発な意見交換があり、今後も皆で協力して取り組むという認識を共有しました。
地道ですが、これからも都支部の認知度の向上に努めたい。昨年度同様に本年度も隔月の例会を通じ、都支部の充実に向けた活動をしたいので、支部員のご参加をお待ちしています。
写真左の、東京都支部ホームページのＱＲコードから支部の活動を是非ご覧ください。

新潟県支部

日　　時　令和４年６月
実 施 事 項　第59回（令和４年度）新潟県支部総会
総会議案を文書協議（郵送・メール）
幹事・報告者　村山　康則（農学Ｈ３）

＜幹事のコメント＞
役員会で相談し、やむなく３年続けて文書協議としました。
令和５年は懇親会を開催する計画です。久しぶりに皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

富山県支部

日　　時　令和５年３月18日（土）
開 催 場 所　富山県民会館503会議室
本 部 派 遣　池谷　紀夫　同窓会事務局員
参 加 人 数　７名
実 施 事 項　令和４年度　富山県支部総会
幹事・報告者　飯野　師（地生Ｈ18）

＜幹事のコメント＞
総会では、令和４年度の収支決算報告等の承認をいただいたほか、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で経済的に修学が困難な状況に置かれている学生を支援しようと、東京農工大学の「修学支援基金」へ10万円の寄付を行うことが出席者全員の賛同で決まりました。一人でも多くの後輩が農工大学で修学を継続できるようになれば幸いです。
本部の池谷様による大学の近況や富山県に魅力を感じて定住された会員のお話を伺い、改めて大学と富山県に対する誇りと愛を共有できる時間となりました。

静岡県支部

日　　時　令和４年７月２日（土）
開 催 場 所　静岡県男女共同参画センターあざれあ
参 加 人 数　28名

実 施 事 項　静岡県支部総会
幹事・報告者　土屋　雄人（応生H20）

＜幹事のコメント＞
杉山支部長から、本部総会と大学の近況についてのお話を頂戴いたしました。総会では、令和４年から年度会計に移行することについて提案し、会員の承認を得ました。講演では、浅井弘喜氏（林学H１）から「森林・林業に関する昨今の情勢について」と題し、森林環境税や伊豆山の土石流対応など、時事に即したテーマをご講演いただきました。

京都府支部

日　　時　令和５年３月11日（土）
開 催 場 所　京都市内
参 加 人 数　４名
実 施 事 項　京都支部世話人会議
幹事・報告者　支部連絡員　平野　孝志（農工S53）

＜幹事のコメント＞
○１回目（令和４年９月10日、京都市内で開催、参加人数４名）
①令和４年度活動内容、予算等の中間確認
②支部総会開催（書面）の報告※反対意見なく全員賛成で承認。
○２回目（令和５年３月11日、京都市内で開催、参加人数４名）
①令和４年度活動実績、決算の確認
②令和５年度活動計画、予算の協議
③本部支部長会議（11月）で議論された事項についての協議
④支部総会の対面での９月開催を予定（京都府内でのコロナ感染状況を注視）コロナ感染状況を勘案して３年間支部総会の対面開催を休止してきました。
令和５年度は以前のように対面での開催を予定することとしました。

奈良県支部

日　　時　令和４年11月20日（日）
開 催 場 所　梁山泊・本館（奈良市内）
参 加 人 数　８名
実 施 事 項　奈良県支部総会・懇親会
幹事・報告者　宮本　大輔（農学Ｈ２）

＜幹事のコメント＞
山本支部長（電気S54）より、これまでの活動と会計報告について説明がありました。引き続いて全国の神社巡りをライフワークとされている支部長より「神社と神様のいろは」と題した講話をいただきました。身近な神様のことですが、案外知らないことも多く皆さん熱心に聞き入っておられました。
その後の懇親会では情報交換や次回の支部の企画等で大いに盛り上がりました。

岡山県支部

日　　時　令和４年８月27日（土）
開 催 場 所　ピュアリティまきび
参 加 人 数　16名
実 施 事 項　岡山県支部総会・懇親会
幹事・報告者　谷　智仁（林学S61）

＜幹事のコメント＞
講演会として、赤磐市役所の吉鶴氏をお迎えし「市町村の有害鳥獣対策」と題して、有害鳥獣対策の担当としての経験談を話していただきました。
総会議事では、連絡員が佐野大樹氏（農学院H16）に交代することとされました。懇親会では今回は若い方の参加が多く、例年になく盛り上がり、参加者相互の近況交換等行い、楽しい一時を過ごすことができました。
岡山県支部の皆様、令和５年度総会は８月26日（土）を予定しております。皆様方のご参加を心からお待ちしております。

広島県支部

日　　時　令和４年５月28日（土）
開 催 場 所　ホテルセンチュリー21広島
本 部 派 遣　池谷　紀夫　同窓会事務局員
参 加 人 数　17名
実 施 事 項　広島県支部総会・懇親会
幹事・報告者　石田　一之（機械S59）

＜幹事のコメント＞
令和４年２月開催予定の令和３年度総会を延期して、コロナが多少落ち着いた５月末に無事開催出来ました。メール案内、Facebook掲載等でなんとか17名の参加者がありました。コロナ禍で参加自粛の県庁職員、マツダ社員の数を考えると次回は40名程度の参加者が期待できそうです。総会では、三宅信行支部長と石田連絡員の継続を全員拍手で承認頂きました。記念写真撮影後の懇親会では、全員の自己紹介と近況報告で楽しみました。また、今回は子供連れの参加者が２組あり、出席者全員がとてもなごやかな気持ちになりました。座席は特に指定しませんでしたが、何故か三原市の４名が同席となりローカルな話題で盛り上がっていました。最後に「広島県支部の発展と出席者の健康を祈念して」一本締めを行い楽しい会を終了しました。

鳥取県支部

新型コロナウイルスの発生前まで、毎年開催していました総会および懇親会につきましては、感染症拡大防止の観点から令和２、３年度、さらに４年度も開催を断念せざるを得ない状況でした。幹事（連絡員）の私（門脇）が支部会員の皆様への総会中止の連絡をしないままになっていましたことを深くお詫びいたします。

コロナの状況を見ながらにはなりますが、江原支部長とも相談の上、令和５年度には開催に向けて準備して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
幹　事　門脇　亙（製糸S54）

徳島県支部

日　　時　令和４年11月26日（土）
開 催 場 所　徳島市富田町志美津
参 加 人 数　３名
実 施 事 項　令和４年度　徳島県支部総会・懇親会
幹事・報告者　小杉　純一郎（林学S63）

＜幹事のコメント＞
今年は、行動規制は無いものの、時期的に新型コロナウイルスの第８波と重なってしまい、参加者が少なく、寂しい総会となってしまいました。一日も早く、元通りの生活が戻ることを願ってやみません。

福岡県支部

日　　時　令和４年12月４日（日）
開 催 場 所　博多サンヒルズホテル
本 部 派 遣　桑原　利彦　先生
参 加 人 数　16名
実 施 事 項　令和４年度　福岡県支部総会・懇親会
・講話『東京農工大学の現況報告と今後の展望』
桑原利彦先生
幹事・報告者　平島　亮介（生産H13）

＜幹事のコメント＞
懇親会では、お一人ずつ自己紹介と一言コメントをお願いしました。みなさま農工大への愛着をお持ちで、学生時代のころを懐かしく語られておられました。終始にぎやかで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。
細かい段取りをマニュアル化しておいたほうが良いと思われました。来賓の方のスケジュール把握（いつ福岡に来られ、東京に帰られるのか）や、二次会などの段取り、参加者を増やすにはどうすればよいか等、今後話し合いながら、同窓会福岡県支部をよりよく発展させていきます。

長崎県支部

日　　時　令和４年６月（議案送付:20日（月）、回答返信期限:７月７日（木））
参 加 人 数　議案送付全会員71名、決議書（回答）返信会員44名
実 施 事 項　長崎県支部総会（書面決議方式）
幹事・報告者　大内　直史（農学S62）

＜幹事のコメント＞
長崎県支部では昨年度支部規約を改正し、新型コロナ発生等の緊急時を想定し、活動単位を２年間から１年間に短縮しており、そのような中、本年度も新型コロナ感染防止のため役員で協議し、書面決議方式で総会を開催しました。
議案には、支部規約改正（役員として新たに顧問を設置）や支部新役員の選任等を提案し、全議案を承認頂きました。
その賛否回答結果に、新体制紹介や返信会員の近況報告等を添えて、支部通信Ｒ４夏号を作成し、全会員に送付報告しました。
来年度は集合総会と交流会が開催できることを願っております。

ながさき農工通信【令和４年夏号】
（編集＆発行：東京農工大学同窓会長崎県支部事務局＆令和４年８月）
支部長挨拶
新体制での活動開始
令和4年度 県支部総会 書面決議 報告、等
新役員挨拶
本部関連連絡事項
中村分会長
大内連絡員
【県支部事務局＝大内連絡員　携帯：09087614223、PC ﾒｱﾄﾞ：n.ouchi83@gmail.com】

熊本県支部

日　　時　令和４年７月30日（土）
開 催 場 所　KKRホテル熊本
参 加 人 数　22名
実 施 事 項　熊本県支部総会・懇親会
幹事・報告者　永山　裕治（環保Ｈ１）

＜幹事のコメント＞
前回、令和元年７月の開催以降、３年ぶりの開催となりました。今回も、開催を決定した後、感染拡大が不安視される中でしたが、感染防止対策を徹底することで無事終了することができました。
この３年の間に５名もの会員が亡くなっていたため、会の冒頭に出席者全員で黙祷を捧げました。一方で、（超）久しぶりに出席した会員もおり、黙食が基本の懇親会ではありましたが、会員相互の交流が図られたようでした。

大分県支部

日　　時　令和４年11月19日（土）
開 催 場 所　ソレイユ（大分市）
参 加 人 数　16名

実 施 事 項　令和４年度　大分県支部総会・懇親会
幹事・報告者　川ノ上　実（生産H12）

＜幹事のコメント＞
コロナ禍で、幹事会はオンライン会議を併用して実施しておりましたが、総会・懇親会はなかなかそういうわけにはいかず、令和２年度は開催中止、令和３年度は開催直前にやむなく中止という、２年連続の中止となりました。
今年（令和４年度）は、第８波に怯えながらも、なんとか開催にこぎつけることができました。３年ぶりの開催でした。
かなり久しぶりの会員の出席もあり、和気あいあいと楽しいひとときを過ごしました。

宮崎県支部

日　　時　令和４年11月26日（土）
開 催 場 所　わらしべ
参 加 人 数　11名
実 施 事 項　宮崎県支部総会（書面議決）報告・懇親会
幹事・報告者　川越　研太（機シスH23）

＜幹事のコメント＞
宮崎県支部では令和４年９月５日に書面議決（37名）にて総会を行い、11月に同窓会を開催しました。総会内容の報告後に、森支部長（林学S53）から支部長会議出席の復命があり、その中で2024年に大学創基150周年記念事業が行われると報告されました。また、池田前支部長（林学S49）が膨大な過去の同窓会資料を整理して、宮崎県支部発足の経緯に加えて、校歌、寮歌、応援歌集などを纏めていただきました。
懇親会では、先輩後輩が相互して昔話や近況報告で盛り上がり、あっという間の２時間で参加会員から時間不足のお叱りを受けるほどでした。次年度の再会と参加者倍増を誓って散会しました。

同好会だより

多くの同窓生の皆様は、クラブ活動OB会・企業内同窓会・同好のサークル等の活動を通じて交流を深めていらっしゃると思います。同窓会ではこういった活動を支援しています。同好会の登録をしてさらなる活動につなげてみませんか。詳しくは同窓会HPをご覧ください。

NEW 東京農工大学ワンダーフォーゲル部OBOG会

2022年12月９日に新同好部会として承認されました。
1960年に創部した母校ワンダーフォーゲル部および会員相互の連絡、親睦を計っています。
また、ワンダーフォーゲル運動の発展・啓蒙のための必要に応じて、学生の援助と指導を行っています。６月25日（日）には、農学部で創部60周年の総会を開きます。50名の会員が集まる予定です。
東京農工大学ワンダーフォーゲル部に在籍した卒業生・メーリングリストにて会員同士の相互連絡を行っています。登録希望の方はobog@tuatwv.comにご連絡ください。
報告者　田中　潤（農化S56）

農工音楽祭

2019年11月の第８回農工音楽祭での教職員バンド、
フロンティアありんこの家featuring SKDシスターズ
（SKDとは昭和カラオケ同好会の略）

令和５年度は第10回となる農工音楽祭を４年ぶりに対面で開催予定です。11月10～12日の学園祭時に教室企画として第1講義棟13教室をお借りし、11月11日（土）にメイン企画を実施しますので、学園祭にお越しの際、お気軽にお立ち寄りいただけましたら幸いです。ラテン音楽からJ-POP、モダンジャズなど様々なジャンルのバンド演奏の他に、飛び入りセッションやカラオケ・タイムも企画中です。11日の武道場前・野外ステージ企画の一部にも教職員バンドの出演を交渉中です。
報告者　佐藤　俊幸（共同獣医学科・教授）

地域再生・地域活性化に東京農工大学の知的資源を活かすネットワーク

2023年３月23日（木）に50周年記念ホールにて、阿部治氏（環保S54）（立教大学名誉教授）による「環境教育・実践の40年の軌跡～環境教育からESD・SDGs～」の講演会を行いました。
阿部氏は「持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」の提言や日本をハブとした環境教育の国際ネットワークの構築などを通じて、日本の環境教育の国際化ならびに世界の環境教育発展に大きく貢献されています。
当日は、会場に12名、オンラインで６名が参加し、阿部氏の環境教育研究の40年の軌跡から多くのことを学びました。
なお、本会は、学生時代に自治会活動や生協活動などに関わり「社会貢献」的な意識逞しく過ごした同窓生の仲間の同好会です。現在1965~75年に学生時代を過ごした方々が中心ですが、このネットワークを更に次世代に広げ、多世代の多彩な活動を紹介、交流しあえる場にしたいと考えています。
興味のある方は、是非とも事務局の淵野雄二郎fuchino@cc.tuat.ac.jp までご連絡下さい。
報告者　淵野　雄二郎（農学S43）

東京農工大学技術士会

2023年２月26日（日）に武蔵野荘にて対面とWEBのハイブリッド方式の総会を行った。
対面参加12名、WEB参加５名、計17名、委任状12名。合計29名。
・議事
１.会長挨拶　本年度からの新会長；吉原伊知郎より。
２.報告事項（①会員数動向②活動報告③会計報告）

・講演
1）「日本のロケット開発」 元JAXAメンバー　三輪田　真氏
ペンシルロケットから、H1、H2、H3の開発に関する、課題とその理由について、詳しく解説。
2）「地球あちこち」 元当会会長　松井　英輔氏（林学S38）
モンゴルで馬に乗る、南アフリカのブルートレインに乗る、ナスカの地上絵、等
3．会員メンバーの「自己紹介を兼ねた近況報告」。
報告者　会長　吉原　伊知郎（化工S51）

イノベーション研究会（略称名：ND-イノ研）

開　催　日　令和４年12月３日（土）13：30～16：15
実 施 事 項
昆虫の世界から見た人間の未来～アリのひみつ大図鑑発売記念～
第１部　基調講演
「海を越えてやって来たアリたち―外来アリと人間社会―」
講師：西末浩司氏　東京農工大学・産学官連携研究院
第２部　メイン講演
「昆虫の世界からみた人間の社会の未来」
講師：佐藤俊幸氏　東京農工大学農学部研究院・准教授
第３部　質疑応答・補足
報　告　者　菅野　茂樹（繊工S49）

＜幹事のコメント＞
アリは全世界で１万種以上が生息し、人間よりはるか昔から地球上で大繁栄しています。その生き抜く力、暮らしぶり等アリの魅力をたっぷりご紹介しました。また、地方自治体からは小学生向けにオンライン講演会を希望する声もあり、年齢層も幅広く視聴者からのご要望も多数寄せられました。ご聴講いただきました皆さま、ならびに講演会の開催にご協力いただいた先生方に、心よりお礼を申し上げます。

馬術部後援会

初乗り会および送別会を開催いたしました。
新型コロナウイルス感染拡大により、各種イベントを制限しておりましたが、いよいよ終息に向かっていることから、本年より馬術部と後援会の対面イベントを少しずつ再開しております。１月21日には、本学馬術施設にて初乗り会を開催いたしました。初乗り会はOB・OGが馬に試乗して現役部員と交流する馬術部恒例の年始イベントで、３年ぶりの開催となりました。また、３月12日には、府中にて送別会を開催いたしました。本年は、３年ぶりの開催でしたので過去３年間の間に卒部した10名と、2022年３月で退職された前顧問教員の渡辺元先生を送別することが出来ました。少しずつ対面イベントも再開し、現役生との交流とサポートを進めてまいります。
報告者　黒田　泰輔（獣医H17）

クラス会だより

クラス会やOB・OG会開催のため、会員名簿が必要な方は同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご参照いただき、 同窓会事務局宛てにご依頼ください。クラス会開催後は、是非ご報告ください。農工通信と同窓会ホームページに掲載させていただきます。

工業化学科大野研同窓会

日　　時　令和４年５月17日（火）
開 催 場 所　鎌倉
クラス（卒年）　大野研究室（S39年～ S57年）
参 加 人 数　14名
実 施 事 項　墓参と懇親会
幹事・報告者　丸山　昭洋（工化S52）

＜幹事のコメント＞
毎年、大野泰雄先生のお墓がある鎌倉にて、同窓会を開いています。このところ新型コロナの影響で見送りが続き、令和４年５月に３年振りの開催に漕ぎ付けました。
例年大野研のOB、OGはもとより、大野先生の長女の陽子さんご夫妻、次女の薫さん、大野研の助手として活躍されていた佐藤さんも出席され、大野先生の墓参、蕎麦屋での懇親会に至るオープンな同窓会です。今回は更に一昨年農工大の共同獣医学科を卒業された薫さんの娘さん（大野先生のお孫さん）も参加され、そして大野先生の生誕100年の節目での同窓会となり一層 盛り上がりました。
新型コロナも終息し、来年も元気な再会が出来るよう願っています。

平成を飛び越して40年ぶりの再会

日　　時　令和４年５月21日（土）
開 催 場 所　品川インターシティ　貸会議室
ク　ラ　ス　機械工学科＆生産機械工学科
昭和51年入学者　あるいは　昭和55年卒業者
参 加 人 数　30名
実 施 事 項　お食事会＆懇親会
幹事・報告者　田中　隆、大沢　洋（機械S55）

＜幹事のコメント＞
40年ぶりに再会しようと同窓会名簿を頼りに連絡を取ってクラス会を企画。皆が楽しみにしていた矢先にコロナ禍となり３年間の我

慢でした。やっとの思いでコロナ対策としてお食事と懇親会を完全に分離して開催。

北海道から九州までの男達30人が交通の便の良い品川に集まり、昔の話、最近の話と大いに盛り上がり、実に楽しく、刺激的なひとときでした。古き良き友は有難いです。

予定の時間を大幅に延長したところで、来年もまた集まろうと固い約束をしてクラス会の一次会はお開きになりました。

昭和60年農学科入学生

日　　時　令和４年10月１日（土）
開 催 場 所　農工大50周年記念ホール
ク　ラ　ス　農学S60入学
参 加 人 数　19名
幹事・報告者　鈴木　志おり（農学H1）

＜幹事のコメント＞

卒業して30年超も経ちました。府中の町は大変貌していましたが、昨日までこの府中で会っていたような、また明日もここで会うのではないかと思えるくらいギャップない皆との会合でした。所在がつかめないクラスメイトが10名ほどいます。ご連絡をお待ちしています。

農業工学科昭和54年卒クラス会

日　　時　令和４年10月13日（木）～15日（土）
開 催 場 所　石川県かほく市
クラス（卒年）　農工S54
参 加 人 数　17名
実 施 事 項　金沢市内観光、能登半島巡り、ゴルフ、湯涌温泉日帰り入浴、懇親会
幹事・報告者　黒田敏正・大澤豊昭・東城清秀・佐藤裕司・松田晴夫・宮崎昌宏・荒井一朗・永瀬良知・青山秀樹・小林宏康

＜幹事のコメント＞

皆が年金世代（65歳超）に到達したことから、コロナ禍を横目で睨みながら幹事会を組織し、４年振りの開催を目指した。石川県の大沢君を現場監督に担ぎ上げ、参加希望の多かった日を採用し、幹事が木目細やかなメニューを用意。当日は天気と全国旅行支援を味方に付け、観光や酒浸りの中で今昔話に花を咲かせた。同時に、無念にも参加できなかった仲間に目配りすることも忘れず、家族に教えを乞うてLINEグループを構築し、宿宴会場と不参加者を繋ぐことにも成功した。これから孫らにはもう「酒は強いがITに弱い爺さん婆さん」とは呼ばせない。

学友会ヨット部 創部55周年 総会

日　　時　令和４年12月３日（土）
開 催 場 所　海運クラブ
来　　賓　ヨット部顧問　田中　綾　先生
　　農工大学職員　黒嶋　亮　様
参 加 人 数　41名（来賓２名、OB・OG30名、現役９名）
幹事・報告者　高橋　俊哉（生命H11）

＜幹事のコメント＞

半世紀以上続くヨット部は２度の廃部の危機を乗り越え、創部55周年総会を開催しました。会ではご来賓の皆様と多くのOB・OG、現役部員が交流する貴重な時間となり、最後に現役が『春インカレ決勝進出』を力強く決意表明して閉会しました。後日、現役は有言実行し、春インカレの予選を突破、見事に決勝進出を果たしました。そして今年の春、ヨット部には明るく元気で気骨ある新入部員が加わり、活気に満ち溢れています。風早会も新たな体制で船出しました。活動詳細は『農工大ヨット部 風早会』で検索してホームページをご覧ください。

機械工学科昭和40年卒同期会

日　　時　令和５年４月１日（土）
開 催 場 所　エリプス
クラス（卒年）　機械S40
参 加 人 数　18名
幹事・報告者　幸地　生好　＆　和田　光章（幹事）

＜幹事のコメント＞

2019年に開催を予定しておりました同期会は、幹事の１人が学友を亡くしたりといったトラブルのため延期したところ、翌年からコロナが発生したことで集まって会合をすることは出来ず、ようやくコロナが少し落ち着いた今年の年明けから開催に向けて始動を始め、５年ぶりの同期会を、母校のご協力の下、実現出来ました。

80の坂を超え、39名の仲間から10名が鬼籍に入りましたが、当日は18名の仲間が集合し、年相応に健康に問題を抱えながらも、母校に集まり、日本の高度成長期を担ってきた世代としてその原点はどこにあったのか、等々について語り合い、桜の咲く下、エリプスで一時を過ごし、またの再会を期待しながら散会しました。

叙勲受章にあたり

令和４年の叙勲

令和四年秋の叙勲受章に際して

小林　駿介（名誉教授）

国内外の多くの方々皆様の御蔭をもちまして、令和四年秋の叙勲で端宝中綬章を受章致しました。

令和三年には内田龍男先生と共同授賞で第111回日本学士院賞を戴きました。その理由は「液晶の物性解明と高性能液晶ディスプレイの研究」です。日本学士院賞は1911年（明治44年）に創設され、野口英世、湯川秀樹、金田一京助など超一流な有名な人が授賞されていて、私の様な人でも良いのかなと思っています。誠に有難う御座います。推薦母体の東京農工大学を通して文部科学省へ私の和文英文の著書を送っていますので文部科学省のご担当部署で評価して戴いたようです。

以下、私の研究歴を紹介いたします。

１．天文少年：昭和20年中学２年生のある日、鉛筆を立てて、左に倒れれば天文学、右ならラジオとして見ると、左天文となりました。中学２年―３年生では寝ても覚めも天文、天文、入手可能な本は全て読みました。天文学の知識を得ました。

２．昭和30年東京理科大学に入り、卒業研究、特別研究生、助手では真空管陰極材料の研究とKCl,NaCl結晶転位Dislocation欠陥の研究。

３．東京大学大学院：応用物理専攻修士課では、半導体CdSのマイクロ波線形光電気伝導の研究、電子工学専攻博士課程ではゲルマニウム半導体のマイクロ波非線形効果の研究でミリ波の発生などの論文を発表しました。

４．理化学研究所RIKEN研究員：Giang pulse laserの実験と世界初PC-Simulation、InSb 遠赤外線検出器（The second kind photoconductorの発見：遠赤外線照射による電子移動度mobility の変化）で仁科研究奨励金受賞しました。1972年日本計算機の武内文雄さんとラビングマシンを発明して世界初の無欠陥カラーTN-LCD実現を行いました。New York, Society for Information Display -SIDで発表し、理研と東京工業大学でデモを行い多くの人にその動作を見て戴きました。

５．1974-1996年東京農工大学助教授、教授：LCDの研究、博士課程担当、博士15人誕生。ラビングマシンを発展させて、日産化学の袋裕善さんと大面積無欠陥STN-LCDを世界初実現、その後の大型LCDの発展の基礎となりました。1996年名誉教授。

６．1996-2014年山口東京理科大学教授、液晶研究所初代所長、ナノ粒子添加LCD及び高分子安定―V-shape 強誘電性液晶LCDカラーフィルター無しField sequential LCD世界初実現。2014年名誉教授。

７．学会活動、国内学会会長、SIDアジア代表Vice-President、液晶国際学会Vice-Presidentなどを歴任。SID Jan Rajchman Prize、文部科学大臣賞、東京都知事賞、2021年第111回日本学士院賞などを受賞し、2022年端宝中綬章を受章しました。その間英文Original papers300、和文技術書20、英文和文技術書３編。

８．楽しい想い出

８．１　1980年代は日本の技術が世界を牽制していました。1983年５月にフランスのミッテラン大統領率いるTrade missionが東京のホテルニューオータニで開催され、そこへ私が招待されました。翌年パリに家族全員招待されました。Micro-Archi社の社長François Mizziさんは今で言うSmart phone（Minitel）の様な電話機の開発をしておられ、そこに液晶表示が使われるので、私をコンサルタントとしてお呼びになられたのでしょう。

1984年８月には、フランスのミッテラン大統領に招待され、パリRue Bonaparteのホテルに滞在しました。

８．２　2004年にアメリカオハイオ州Robert Taft州知事一行のTrade missionが東京農工大学に来られ、オハイオ州のケント州立大学の液晶研究所の一行と合同シンポジウムを開催して、記念に東京農工大学工学部キャンパスにハナミズキを植樹しました。（此れは100年前のアメリカと日本で桜とハナミズキを時のウィリアム・タフト大統領と東京市長、尾崎行雄とで交換した歴史に因んだもので、宮田清藏学長にして頂いたものです）。ケント州立大学のJohn West 教授が1996年に東京農工大学工学部の小林研究室に４ヶ月ぐらい滞在され共同研究を行いました。この二人でTrade missionの立案をしました。

長々とお読み戴きまして誠に有り難うございます。

英語についてはtipとchipの発音が区別出来たら英語は70％OK、これについては別の機会に。

2023-03/07
皇居参内の帰りSnap shot

叙勲受賞の報告

田倉　和男（電気S44）

令和４年春の叙勲で旭日単光章を受章いたしました。今回もまた新型コロナの影響で居参内・拝謁ともに無く、ご推薦をいただいた産総研つくばセンターの方から勲記・勲章を受け取りました。

私は農工大工学部電気工学科を昭和44年に卒業しました。在学中は、成績の芳しくない私でしたが、同級生の手助けによりなんとか卒業することができ、且つ、㈱仁丹体温計（現テルモ㈱）にもなんとか就職できました。水銀体温計などの製品を製造する装置の設計部門に配属されました。製品がガラス細工だったため部品の寸法は一定にならず各部品を寸法で分類し、適した組み合わせで製品を組み立てました。この分類作業は大勢の女性社員の手作業によるラインで行ってましたが、在学中に学んだ回路設計を基に私が設計製作した自動分類装置によりこの分類作業ラインが不要になり、省力化に貢献したとして入社数年目でしたが社長賞をいただいたりしました。テルモでは17年間勤めあげ、山梨県の甲府工場に居た39歳の時に退職し、自宅の庭に15坪のプレハブ小屋を建てて㈱オーテックエレクトロニクスという中小企業を創立しました。

オーテックエレクトロニクスでは全国各地の各社からの開発依頼を受け、和泉電機㈱・ＳＭＣ㈱・ＳＭＫ㈱・オリエンタルモーター㈱・京セラ㈱・韓国現代自動車・シチズン電子㈱・テルモ㈱・東京エレクトロン㈱・東レエンジニアリング㈱・日亜化学工業㈱・日東工器㈱・日本特殊陶業㈱・日立化成㈱・鹿児島松下㈱・マブチモーター㈱・三井金属㈱・名鉄住商㈱などと言った各社に特注設計の省力化装置を納入しました。たいした事はやれてませんが、36年間倒産もせずに何とかやって来れたこと、地域経済への活性化（県内若者の雇用）や山梨県工業技術センターや産総研つくばセンターとの技術連携などが評価されたこと、令和元年に経済産業省から「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選出されたことなどから、この度の受章となったようです。民間企業からのこの受章は大変稀な例なのだそうです。

この場を借りて、在学中にお世話になった同窓生や長らくご無沙汰している卒業生の皆様にお礼とご報告をさせていただきます。

叙勲受章にあたり

多田　全宏（農化S43・名誉教授）

令和４年春の叙勲で瑞宝中綬章を賜りました。この度の受章につきましては多くの方々にご尽力いただいていることと存じますが、ご尽力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

私が教員として東京農工大学にお世話になっておりましたのは、1977年10月１日から定年退職した2009年３月31日までの約31年６月間でありました。その後2009年11月30日までは特任教授を務めさせていただきました。在職中は何時も私なりに真剣に努めて参りましたが、その間にお世話になりました諸先輩や教員の皆様、支えてくださった事務の方々、卒業生の皆様、学生諸君など多くの皆様方には深く感謝いたしております。お陰様でこの間に多くの優秀な学生さんを世に送り出すことができたと共に、国際誌へ原著論文百数報や著書、総説、特許等多くの著作を出す事も出来ました。今回の叙勲では図書館の電子化を進めたことが評価されたと、何人かの方から伺いました。

私が図書館長に就任したのは2001年４月であったと記憶しておりますが、この頃は国立大学の独立法人化と大学の再編成が最も大きな問題でしたが、図書館電子化も避けて通れない世界的に大きな流れでした。以前は１つの事項に関する情報を調べたいと思ったら、印刷された文献抄録誌を使ってキーワードから調べ、欲しい情報の載った原著論文を探し出し、その雑誌が置いてある図書館などを探し出し、自分でコピーを取りに出かけて行くか、コピーを送ってもらうのが一般的でした。私自身も一つの事項の情報検索のために何日も図書館に張り付いた経験は何度もありました。しかしCHEMICAL ABSTRACT、科学技術文献速報、特許公報などは始めからコンピューター・データとして作成されておりましたし、数百の国際的に有名な学術誌をWeb版として世界中の図書館に一括して売っている書店もありました。これらの電子化された学術情報の入手手段を大学に取り入れ、図書館電子化を進めることの必要性は解っていたのですが、問題は予算をいかにして捻出するかと先生方の意識の切り替えにありました。当時、論文の投稿も原稿をタイプライターで打って郵送する論文誌も残っており、図書館には時々行って紙の本を触ってくるのが好きだと言う方も居られました。しかし、多くの学術誌は紙の出版物からWeb版に変えざるを得ませんでした。幸い、東京農工大学の図書館には優秀な図書館司書と事務員が揃っており、図書館電子化を差し迫った問題と理解して下さり、絶大なご協力と提案をしてくれました。予算の捻出には学長をはじめ多くの方々のご理解を頂きました。図書館の電子化を進めた後は、自分の研究室に居ながらにして必要な情報検索や数千の学術論文誌の閲覧ができるようになりました。皆様によりよく使っていただくために『科学技術情報検索の実際』という本も出版いたしました。東京農工大学の図書館は皆様のお力によって、国立大学図書館としてはいち早く図書館電子化に踏み出すことができたのです。

大学は困難な時代を迎えられていると思いますが、間違いなく洋々たる未来が開けていると思います。皆様の益々のご発展を祈念申し上げております。

お名前の五十音順に掲載しています。

退職にあたり

東京農工大学　理事　教授　直井　勝彦

早稲田、BASF、ミネソタ大を経て、1990年に農工大に着任しました。当時は未熟な32歳の講師でした。授業もTシャツとジーンズで行い、キャンパスを歩いていると「君、空手部に入らないか」と、学生に間違えられ、部活に勧誘されたこともありました。あっという間に33年が経ちました。2002年にはベンチャー企業K＆Wを設立し、2012年には次世代キャパシタ研究センターをキャンパス内に設置しました。その結果、企業からのレジデント、大学院生、教員スタッフやGIR海外研究者が常駐する（in ONE HOUSEな）産学・国際連携のコミュニティが形成されました。様々な立場・角度からのアイデアを研究アプローチに反映させ、皆で協力して楽しく研究に没頭しました。そして、次第に次世代キャパシタ分野で世界的な拠点となっていきました。私は努力よりも夢中になることが大切だと思っています。これまで私たちは、研究運営の新しいスタイルの追求、「社会実装」という軸の新しい価値の創造とサイエンスとの融合を自ら体現してきました。しかし、これらのことを寛容に受け入れてくれた農工大という懐の深いプラットホームに、改めて深い感謝の念を抱かずにはいられません。

農学研究院教授　竹原　一明（獣医S56）

1981年３月に４年制最後の獣医学生として本学を卒業しました。農林水産省、北里大学と巡り、2010年に本学に獣医衛生学教授として着任した際には、学生時代にお世話になった諸先生方や後輩が学内に多数居り、タイムマシンで30年前に戻った気分でした。折しも口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの大流行があり、獣医衛生学研究室の学部生・大学院生達は、世界の畜産を守るべく、衛生対策として、現場に即した研究を様々な角度から実施し、多数の成果を上げることができました。それらの成績は学術雑誌に掲載されるとともに、家畜伝染病予防法の基礎資料としても活用されています。多くの学生は農水省や公務員に採用され、留学生は自国の大学や国立研究機関において任務に就き、それぞれの分野で活躍しています。本学同窓会は、卒業生同士がつながる制度の一つなので、世界を股にかけ活躍する教え子たちとの今後の繋がりが楽しみです。

農学研究院教授　蓮見　恵司（農化院S57）

1988年６年１日に農学部助手として着任以来35年間、教育研究の責務と好奇心との狭間で格闘して来ましたが、振り返ればあっという間の出来事のようにも思えます。緑の癒しに満たされた農学部キャンパスと優秀な学生と気持ちの良い同僚に支えられたことを改めて思い返しています。

着任当時の所属は農芸化学科発酵学講座でしたが、現在は応用生物科学科となっています。研究室名は相変わらず「発酵学」で先代の高橋健名誉教授、遠藤章特別栄誉教授からの研究室を引き継いだ手前、かたくなに「発酵学」を貫きましたが、研究の主体は微生物の作る生理活性物質の医薬開発に関わる研究でした。かろうじて「微生物の作る」を拠り所に発酵学を名乗っていたようなものです。それにも関わらず、毎年研究室に来てくれる学生には「風変わりな発酵学」を楽しんでもらえたようです。このような多くの学生や同僚、学外の共同研究者、公的資金や投資家に支えられ

て、所期の目的を概ね達成できたことがこの35年間の宝物となっています。

今後は、研究成果実用化のために設立した企業との共同研究講座にて「概ね達成」を「達成」に変えるべく、府中キャンパスでもうひと踏ん張りする予定です。

工学研究院教授　森　祐希子

1991年４月、私は東京理科大学から本学に、一般教育部並びに工学部所属の英語担当助教授として着任しました。当時、工学部の教授会ではただ一人の女性メンバーでした。一般教育部の解体、国立大学の独立法人化など度重なる組織改革を経験するとは、その時点では知る由もありません。以来32年、学部の英語科目を担当、人社科目の「文学」「芸術論」等も教え、卒論指導や修論指導にも携わりました。同時に大学院以来、一貫して英文学のシェイクスピアを研究し、特に劇作品の映画化研究、歴史劇の研究を進めてきました。自主的に学ぶまじめで熱心な学生、緑豊かなキャンパスは本学が持ち続けてほしい優れた点です。加えて本学の教職員はアカデミックな志向が強く、図書館を始めとするサポート体制のお蔭で、国際的な場で研究成果を挙げられたと感謝しています。これからも東京農工大学が現役の教職員、学生、そして同窓会の協力の元、グローバルに発展していくことを願ってやみません。

定年退職を迎えて

工学研究院教授　山崎　　孝

2002年４月に助教授として赴任して以来、21年に渡って農工大で研究・教育に携わりました。横浜にある自宅から大学までの片道1.5時間の電車通勤は、当初かなり長く感じられたものですが、すぐに慣れて苦痛に感じることはなくなり、この時間はメールや論文のチェックに有効利用されました。最終的には、毎日１万歩の歩行を余儀なくしたこの通勤が、大病することもなく定年を無事に迎えることができた要因であると思っています。当研究室には、延べ110人の学生諸君と３人の技官、１人の特任助教が所属しましたが、彼等の弛まない地道な努力は毎年多くの新しい成果を創出し、生み出されたデータは、論文や特許、口頭発表、新聞記事など様々な形で公表することができました。学生諸君のこうした働きばかりでなく、学科の内外の先生方、事務系職員の方々のサポートに心から感謝をし、始まったばかりの「人生の第２章」を楽しんでいこうと思います。

定年退職者のお知らせ

本学在職中に同窓会活動に多大なご協力をいただいた下記の先生方が、令和６年３月で定年を迎えられます。

朝岡　幸彦　農学研究院　教授
四方　俊幸　農学研究院　教授
谷口　隆秀　農学研究院　准教授
町田　　登　農学研究院　教授
新井　克彦　農学部附属硬蛋白質利用研究施設　教授
高柳　正夫　連合農学研究科　教授
篠原　和子　工学研究院　教授
高橋　　徹　工学研究院　教授
毛利　　宏　工学研究院　教授
森下　義隆　工学研究院　准教授
野間　竜男　グローバル教育院　教授

（氏名掲載はご本人の了解を得ている方のみです）

同窓生からの寄稿文

「食は命」あなたの身体は、食物によって日々つくられます。

前之園　孝光（獣医S44）

1，健康長寿・医食同源

健康には、「バランスの良い食事」「適度な運動」と「良質な睡眠」が大事なことは言うまでもないでしょう。「今の時代に栄養不足なんてあるの?」と思われるかも知れませんが、高齢者の栄養不足というのは実際に起こっていると言われています。私たちが生きていく為に必要な栄養素のうち、炭水化物（糖質）、脂質、たんぱく質は、三大栄養素と呼ばれています。しかし、多くの高齢者はたんぱく質が不足しています。たんぱく質は筋肉の材料になる栄養素でもあるので、足りなくなると筋肉が減少します。たんぱく質やコレステロールが減り過ぎると、免疫力が低下しますし血管も脆くなって長生きできなくなります。高齢になると筋肉が減りやすくなるので、若い時よりもたんぱく質をとらなければならないのです。

2，牛乳を飲んで健康に

①哺乳類の乳には、生まれたばかりの生命を維持し、発育させる力があります。
本来は牛乳も、母牛が子牛に与える為のものです。そのため栄養が豊富で、３大栄養素のタンパク質、炭水化物、脂質に加え、ミネラルやビタミンをバランスよく含んでいます。

②なかでもタンパク質は、コップ一杯（200㎖）で成人が１日に必要とする量の10分の１以上に当たる6.8ｇが摂取できます。また、牛乳の炭水化物の99％は乳糖です。乳糖には整腸作用があり、便秘の解消にも効果的です。お腹がゴロゴロして飲まない人はヨーグルトやチーズをおすすめします。

③牛乳は、日本人に不足しがちなカルシウムも豊富です。カルシウムは骨や歯を丈夫に保ち、骨粗しょう症を防ぐほか、高血圧の予防やストレスの緩和などに効果があるとされます。コップ一杯（200㎖）で、成人が１日に必要とする量のおよそ３分の１にあたる227mgが摂取できます。また、人間にとって牛乳のカルシウムは、小魚や野菜よりも吸収されやすいことが分かっています。ビタミンB群も比較的多く、とくに生活習慣病や老化を防ぐとされるビタミンB_2が豊富です。

④さらに牛乳は、100kcal当たりに含まれる栄養素の量を表す栄養素密度が高いという特徴があります。つまり、少ないエネルギー量で、栄養素を効率よく摂取することができるのです。

3，健康長寿が大事です。皆様のご健康とご多幸を祈念致します。

酒飲みのシルクロード

溝口　正伸（製糸S46）

半世紀も以前の事となりますが、当時国分寺駅北口の右手にしばらく行ったところに“百薬の長”という飲み屋がありました。大きな赤提灯がかけてある割には、入り口が狭く店長が中央に立って、両側にカウンター席がありこじんまりとしたところでした。

匂いのきつい芋焼酎の梅酒割とハツ、タンの塩焼きをつまみに柔道部の練習の帰り仲間と良く通ったものでした。濃い目の焼酎は、空きっ腹に心地よく効き、正に五臓六腑に染み渡った思い出があります。

会社を退職後、時間を有効に使って心・技・体を鍛えて知力、体力維持を継続しようと努力をしている中でコロナ禍となり、時間を持て余し気味で乱読中に、たまたま酒に関しての考え方を詩や歌に残している人々を発見しました。この三人は、死後の世界で身体は、土に還る、その土で酒壺を作って酒を満たしてほしいと願う程お酒が好きな人だったのです。例えば、ペルシャのオマル・ハイヤーム（1040年頃セルジュクトルコ帝国時代の天文学者、数学者）、中国の鄭泉（ていせん）（後漢末期220年頃博学、奇志の人）、日本の大伴旅人（730年頃大宰府の長官）この３人がシルクロードで繋がっているのかどうかわかりませんが、中国からこの酒壺の考え方がペルシャまで伝わった可能性が高いと思っています。

オマル・ハイヤームの詩は『ルバイヤート』（小川亮作訳）の中に次のように記されています。81

番“尊い命の芽を摘み取られる日、身体の各部がちりぢりに分かれる日、その土でもし壺を焼いたら、早速酒をついでよ、息を吹き返すから。”

中国の鄭泉は、遺言の中で、“数百年後、自分の屍が土と化して酒壺が作られるよう、窯の側に埋葬せよ”と言っています。この考えがペルシャ、日本に伝わったと思われます。そして、大伴旅人は、万葉集巻第3,343歌の中で、“なかなかに　人とあらずは酒壺になりにて　しかも酒に染みなむ”（なまじっか分別くさい人間として生きてなんかいずにいっそ酒壺になってしまいたい、そしたらいつも酒浸りになっていられよう。）

当時の神話や言い伝えでは、人は死ぬと黄泉の国へ行って再生することになっています。この黄泉の国は、魂の集まりで肉体はそのまま土に還ります。つまり彼らは、黄泉の国では、五臓六腑に染み渡る美味い酒は味わえないので、そのおいしい酒を飲むには、土となった体の一部で壺を作って酒を壺にしみこませるしかない、と思っていたのです。この考え方がギリシャ神話の中に無いかと思って探していますが今のところ見当たりません。

平山郁夫シルクロード美術館の仏像スケッチ

最近の私の飲み方は、素焼きのぐい飲みになみなみと美味しい酒をついで十分染み込ませて遠い祖先の望みを十分満足させたうえでゆっくり味わって飲むことにしています。

一瞬の４年間とその後

山田　正彦（製糸S46）

能登の過疎地から県都金沢を一足飛びに超え東京に出ることができた私には、大学生活は見るもの聞くものすべてが斬新であった。しかし、見聞きするモノだけではなく友人という大きな財産を得たことの意味は大きく、当時は強い意識は無かったが、今となって言えるのは伴侶に続く、いや場合によっては伴侶と同等の存在となることもしばしばである。

農工大入学当初はアパートが見つからず多磨霊園横の知人のアパート４畳半に転がり込んで共同生活であったことから入学時のオリエンテーションにも参加しなかったが、顔もよく覚えていないイニシアルの近い友人が住まいを確保してくれた。最初に覚えたパチンコは阿佐ヶ谷駅前にあり、当時は50円で球を購入しチューリップがよく開くと100円を超える景品が手に入り心を弾ませ下宿に帰ったものだ。

兎に角アルバイトで稼ぐことを覚えたら生活が楽しくて仕方なく、通学定期は目黒の同級生宅の住所を借り歌舞伎町にも行った。家庭教師や週２回の放送局深夜バイト、製糸会の学園祭運営で知り合った浅草橋のネクタイ卸会社のバイトは特に待遇もよく心地よかった。このころやはり友人の紹介で西荻窪の大きな洋館の寮に入ることができ、この友人と一緒に暮らし能登の高校後輩も同居し都会の自由な生活を満喫した。

山形の同級生は高校までの田舎における境遇が私とよく似ており、彼の結婚式に友人たちと出席したことは大きな思い出だ。

アルバイトのお陰で授業はほとんど出ず、大学後半の研究室の選択は私の出身地輪島にルーツがある柿木英夫教授の懐にはいり甘えさせていただいた。卒論の方は見る影もなくお粗末で恥ずかしいが、教授のお情けで落第は免れた。お世話になった事から研究室の卒業旅行はＪＴＢ顔負けの手配をさせて頂き、卒業後運よく入ることができた石川県庁に退官後の教授がライフワークをする場所を探していると聞き、工業試験場長が以前の上司であったことから頼み込み、不定期に研究室を開放して頂き多少の昔のご恩を返すことができた。

県庁時代にラッキーが重なり欧州、アメリカ、南米と出張があり外国を旅することができて良かった。そのせいか娘が学生の頃15回も海外に行ったと聞いて驚いた。旅費など渡した覚えが無い。費用はアルバイトで稼いだそうだ。私の初めての出張で着陸したハンブルク空港でライフルを構えた警察官らの出迎えを受けた時は体が震えあがった。

県庁を退職後は10年間の企業誘致で経験した全国の企業との交渉経験を活かし現在も石川県への企業誘致に汗をかいている。令和４年末に会った

前列左が筆者

親友３人のほか当時麻雀で平然と私を苛め抜いた山形の友人にも会いたい。

母校に戻ってとった博士号

新仏　利仲（機械S46）

気楽にお読み頂けるよう軽いテンポで書きました御無礼をご容赦ください。

私は昭和46年（1971年）工学部、機械工学科を卒業しました新仏利仲です（「にさらぎとしなか」、今は「しんぶつとしなか」と読むことにしました）。いま76歳。70人ほどの非同族中小企業の機械製造業で６代目社長をやってます。

農工大との関わりは、まず入学試験です。入試の際は間違いなく合格と思っていましたが、なんと補欠入学。卒業も手抜きが祟って苦労してやっと卒業。ただ学生生活の中で、これから日本は世界に伸びると思った。それまでは、英語なんてのは通訳がいれば間に合うから必要ないと思っていたのに、英語が絶対必要になると突然自覚した。高校で英語試験百点満点中、４点の学年最下位をとって、成績が悪いのは英語が面白く無いからだと嘘ぶいていた。それなら、興味を持つ方法を考えようと思い、休みの日には皇居の広場に向かい、見かけた外国人に片っ端から「私日本語わかります。交通費、食事代をくれれば、そこいら辺を案内します。」とたどたどしい英語で話しかけた。面白かった。試験とは大違い、楽しんだ。

世の中に出ても続けた。翌日が英検２級の口頭試問のある大雨の日。名古屋から新幹線で東京に戻り、楽しいお勉強相手を探していたら、迷子のアメリカ人女性に出くわした。彼女は日本初めて、海外旅行も初めて。１人で富士山を見に新幹線に乗って帰り道、ホテルの案内図が雨で溶けて帰り道が分からない。なんとか色んなことを聞き出して、ホテルニューオオタニに送り届けた。本人はとても喜んだ。これが、今の女房になるなんて思わなかった。一生懸命勉強したつもりなのに、今もって、「アナタ、語学の才能無いね！」と言われ続けています。矢っ張り語学の才能はないと自覚する日々。

その後、しばらくの間仕事をした。開発好きな私は世界で初めてのCNC転造機（転造金型の運動をコンピュータで全自動制御して、高精度なねじを大量生産する機械）を開発した。販売の為に、宣伝になるだろうと思い、機械学会、塑性加工学会、その他、業界の主要な賞を頂いた。初号機の買い手は開発中の機械を見た大手ベアリング会社だった。開発機なので、売らないと言ったが、ゴリ押しされて、買われてしまった。宣伝になると思いきや、マスコミには絶対に発表しないでくれと頼まれて、素直にその通りにした。その結果、大手ベアリング会社は大儲けした反面、当該機が国内企業で当たり前に使われるようになるまで14年もかかった。

最近では、緩み止めボルト「PLBv2」を完成させて「第９回ものづくり日本大賞」の経済産業大臣賞をいただきました。間違い無く世界No. １商品です。そして「これからは、世界だ」との自覚から、博士号を取ろうと思った。博士号を持つ社員に対する、外国人からの敬意のある態度からして、博士号は信頼の基準の一つみたいだと思ったからだ。それじゃと思い、夢にも思っていなかった母校に舞い戻り、CNC転造機の開発でお世話になった桑原利彦先生のご指導で、博士号を頂いた。

早速名刺に刷って、会うたびに、渡した。どういう訳か、私の会う外国の人は「日本通」を自慢したいらしく「ドクター新仏」と言わず、「新仏さん」「新仏さん」と呼ぶ。皆が、皆そうだ。

そんな、今日この頃です。

PS：もし開発品にご興味ある方は「PLBv2」をネットで検索すると資料があります。

旭日単光章の叙勲、女房と参加
2019年12月12日

和歌山からの便り

藤原　洋美（製糸S47）

１、和歌山の住まい

和歌山は大都市の大阪と接した県でほとんどが山林で占められています。

私の住む地区は大阪の県境に接し、和歌山市に隣接する人口５万４千人余りの岩出市です。JR岩出駅から北へ約２Kmの南大池が私の住まいです。

今回、岩出市で有名なものを紹介します。

２、岩出市の有名なもの

市の南を中央構造体が走り、それに沿って流れ

ているのが紀の川という和歌山で最大の川です。これらは岩出市以外の町にもありますので、岩出市のみのものを探していきます。

1）まずは根来寺が挙げられます。1288年に覚鑁上人（興行大師）が鳥羽上皇の荘園を寄進され開かれたのが始まりです。

最盛期には2700余りの建物が立ち、所領として、75万石と言われていました。（紀州徳川家は55万５千石）鉄砲伝来も種子島に入ってから１年で根来に入ってきました。僧兵の力が強く豊臣秀吉も苦労したようです。

根来寺の覚鑁祭りが９月に開催されますが、ちょうどその時「出川哲郎の充電させてもらえませんか」のロケ中に遭遇しました。私は以前、戸隠で同ロケに会って２回目の遭遇でした。

2）続いては岩出御殿があります。

岩出御殿は徳川８代将軍吉宗が、紀州５代将軍だったころ参勤交代時の休息場として建立された建物です。現在この建物は岩出市にはなく、神奈川県の三渓園に移築されていますので、そこで確認してください。

3）さて時代はぐっと新しくなって、東京オリンピックに話は進みます。オリンピックのスケートボードで金メダルを取った四十住さくらさんです。

岩出市始まって以来の快挙でした。

たまたま喫茶店に入ったところ家族で団らんされているところに遭遇しました。彼女の家は私の家から２Kmも離れていないのでありうることだと思いました。

まだまだ和歌山はたくさんの有名なものがありますが、身の回りのものを紹介しました。

屋久島の思い出

伊藤　道男（林学S48）

1973年卒の私は卒業してちょうど50年目になります。卒業後は千葉県職員として過ごし、退職した現在も仕事とボランティアにあわただしい日々を送っており、健康と人間関係に恵まれたと感謝する日々です。さて、学生時代の思い出はと問われると、１年生の春休み３～４月の１か月余を過ごした屋久島のことが忘れられません。

当時屋久島の営林署にいた農工大ＯＢからアルバイトの紹介があり、同じ林学科同期の山下、日下部と３人で、急行霧島の自由席（ボックス席）で東京駅～西鹿児島駅を28時間かけてたどり着き、鹿児島大学の寮に２泊し、貨客船と称する小さな船で屋久島に向かいました。初めての船旅でひどい船酔いをしましたが、トビウオの飛ぶ姿にびっくりし、洋上アルプスと言われる屋久島の全容を初めて見たときはやはり感激しました。

屋久島では最初は海岸のチップ工場で働き、ここではビールの味を覚えました。その後「安房森林軌道」のトロッコに乗って26キロ上流の小杉谷部落まで移動し、営林署の小杉谷事業所の宿舎に入りました。小杉谷での仕事は担当区主任の補助で、未経験の測量補助などに冷や汗をかきました。ともかく現場が山深く、毎朝気動車で引かれたトロッコで上流へ向かい引き込み線にトロッコを止めて、作業が終わるとトロッコを本線に押し出し手動ブレーキだけで急こう配を小杉谷まで降りるアトラクションのような体験もしました。当時、まだ屋久杉の伐採が行われていて、巨木をつんだトロッコが轟音を響かせて谷を走り下っていくシーンが印象に残っています。

また、大手新聞社の取材（視察）があり、同行した営林署所長以下10人余で縄文杉に立ち寄り、さらに残雪の残る宮之浦岳～永田岳の稜線を登山したことも貴重な体験となりました。初めてみた縄文杉の存在感には圧倒されましたが、当時は発見されてまだ４年目で、特に制限はなく縄文杉に寄りかかって記念写真を撮ることができました。

出発時に切符とは別に１万円を持って出たが、帰宅して財布を見るとちょうど１万円残っていました。当時はなんだか１か月余を無駄にしたような気もしましたが、年月が経つにつれ２度と出来ない青春時代の貴重な体験だっだなと感じるようになりました。

なお、これを書くに当たり、一緒に行った山下

さんの数年前の文章を参考にさせてもらいました。その記憶力に脱帽するばかりです。

縄文杉で一休み

70歳を迎えて支部長へ

後藤　卓（林産S50）

農工大50年卒の後藤です（林産学科卒というよりサッカー部卒：笑い）。この度、福岡県支部長拝命致しました。第二の人生をスタートし始めたところでしたので「兎に角今までの経験を活かして、先輩諸氏が継続している同窓会運営をやってみよう」と自分を説得しました。

本校での同窓会総会に参加し、現状、同窓会運営についての課題等も確認いたしました。当日は、学園祭も開催されていて後輩たちの姿に昔の自分を顧みたところでした。サッカー部模擬店での後輩との会話や他サークル模擬店も見て回り、同期のメンバーへ後輩の活動している姿をラインしたり、当日を関係者にシェアーして喜んでもらいました。

今、母校同窓会課題が「同窓会参加者を増やそう！」です。総会での各支部報告「参加者募る施策」を確認できましたが苦戦しているのが現況ですね。しかし、各支部がその課題解決に向け色々と取り組んでいることを皆さんが知ることが一番大事ですね。傍観者でなく当事者になりましょう！

福岡支部長としての今までの先輩諸氏・関係者の苦労を無駄にせず、さらなる発展を目指し邁進したい所存です。早速、福岡県支部同窓会を開催し前進させるべきスタート切りました。関係者の御協力のおかげで、初参加の方が見えられ楽しい会になりました。支部登録メンバー約310名への案内で返信が97通で参加者は16名でした。課題はありますが今後の運営にあたり自信が持てるような感触でした。参加者の意見にそのヒントがありました＝現場には事実があるのです。反省を兼ね幹部での新年会も開催し、色々な課題を共有化しました。このような繰り返しになると思いますが、データー分析から、どのように支部登録者を参加いただくかを関係者で考えて運営してまいります…楽しい仕事になりそうですね。一例ですが、初参加者の意見から支部登録者への連絡網に工夫したいと考えます。卒業学科の縦のライン、当然全包囲網横のラインを駆使し、幹部含めた関係者と協力し合い、発展させていきたいと考えています。さらに若いOB/OGの参加をどのようにまとめていくか各地区の施策等も参考にしながらの運営、本部機能の活用（協力依頼等）など取り入れていく所存です。参加者を増やし楽しい「同窓会運営」を目指します。

身を削って助けてくれた恩師

高野　文夫（化工S51）

私は、作家として今までに150冊以上の本を出しています。ビジネス書が主ですが、その中の一冊として毛色の変わった本も出しています。下記にその本の表紙を掲げました。

この本の中で、大学の院生時代にお世話になった恩師の事を書いています。人生の師として、その先生との忘れ難き思い出をご紹介させて下さい。

第九章【大学編】

大学院の入学金を立て替えて下さった大学の研究室の先生（身を削って助けてくれた恩師）

私の大学院研究室に油谷先生という助手がおられました。

指導教官の乙竹教授以上に、この先生から受けた薫陶には忘れられないものがあるのです。

油谷先生も苦学をして大学を卒業していますから、私の様に学費を稼ぎながら頑張る学生を心から応援してくれました。

研究室では、夜遅くまで人生論や世の中の諸々の不条理について語り合ったものです。

私は、大学院に受かった直後に大けがをして１カ月の入院を余儀なくされてしまったのです。入学金と前期授業料込みで、確か額面18万円でした。何時いつまでに払い込まないと、入学を取り消すとの手紙が来たのです。

私の実家は母子家庭で兄弟は４人、アルバイトで毎月を喰い繋ぐ苦学生でしたから、どうしても18万円のお金の工面が出来なかったのです。大学

卒業後の一か月間に集中的にアルバイトをやって稼ぐつもりでした。入学がままならないと、病院に見舞いに来て下さった油谷先生にポロッと漏らしたのです。

数日後「高野心配するな、入学金と授業料は私が払い込んでおいたから…、返すのは何時でもいい、出世払いでいいよ！」と言って下さったのです。油谷先生のそのお言葉には胸が詰まって何も言えなかったのです。

実は、私は荻窪の有名な外科医院の息子さんの家庭教師をしていました。そこの院長先生が、折しも「目標にしていた高校に息子を合格させてくれたお礼だ」と言って大変な額のお金を包んで下さったのです。そのお金で、即、油谷先生にお返しすることが出来たのですが…、その当時の大学の助手の給料は知れたものだったと思うのです。お子さんも二人おられましたから、きっと生活は苦しかったに違いないのです。そんな状態なのに、奥様を説得して18万円もの大金を工面して下さった先生は、私にとっては、ガンジーやマザー・テレサと同じなのです。

嘗ては、日本の公立の先生の給料や宿舎のわびしさには想像を絶するものがあったのです。聞くところによると、今では相当改善されたそうです。

私は学校の先生の待遇は出来るだけ良くすべきだと思います。なぜならば、教育こそ、将来の日本を創るのです。その教育者の給料などの待遇が世間一般より劣っていたら、良い人材が集まる訳がないのです。三菱やトヨタに入るより先生になりたいと言う人が出て良いと思うのです。なぜならば、自動車のメーカーで自動車を作るより、人づくりの方がよっぽど、この国にとっては大切だからです。

自動車は、ほとんどの行程でロボットが作っています。（私はサラリーマン現役時代に研修講師をしていまして、日産やホンダ技研の講師もしてきましたから良くわかっています。）

人は人によって人となり、人が人を造るのです。　おわり

『私が出会った先生は聖職者：学校の先生ほどかっこいい職業はない』

マングローブの保全・再生で地球温暖化抑制に貢献したい！

馬場　繁幸（林学院S52）

寄り道をしたので1977年に30歳直前で大学院（修士）を修了した。翌1978年に北海道生まれの私が、琉球大学農学部に助手として赴任するまで、マングローブを見たことがなかった。出会いとは不思議なものである。西表島で満潮時に海の中に生えているマングローブを見て、それがきっかけとなって、その後40年間以上もマングローブに関わっている。

世界19カ国以上の国々のマングローブ研究者・行政担当者の要請を受け、わが国外務省、沖縄県、それに琉球大学が受け入れを決め、事務所を琉球大学農学部内として、1990年に設立されたマングローブに関する国際NGO/NPOが、「国際マングローブ生態系協会（以下ISMEと省略）」である。ISMEの設立準備にたずさわり、その後事務局長を拝命し、定年で琉球大学を辞めた後も、ボランティアでお手伝いさせて頂いている。

ISMEは、世界30カ国以上の国々でマングローブの調査研究を行い、国際協力機構からの委託で40カ国以上から200人を超える研修員に研修を実施してきた。

現在、マングローブ植林活動を行っているのは太平洋の小さな島国のキリバス共和国、インド、マレーシアであるが、これまでも、熱帯の多くの国々でマングローブ植林を行ってきたので、植林した本数は数千万本を超えているであろう。

海外での活動が多かったことから、大変有難く名誉なことに2015年７月13日にキリバス共和国大統領から勲章を賜り、昨年（2022年）のユネスコが定めた国際マングローブデーの７月26日には、スリランカ郵政省から小生の顔写真が入った記念切手が発行された。

マングローブや海草など、海域の生物の光合成によって吸収・貯留される炭素はブルーカーボンと呼ばれるが、ブルーカーボンは陸上植物のグリーンカーボンよりも二酸化炭素吸収効率が高いとされることもあり、最近は、多くの企業からブルーカーボンについての問い合わせが寄せられている。

二酸化炭素を大量に排出している多くの企業が、マングローブ林の保存や再生に積極的に資金提供してくだされば、若く優秀な人材をISMEで雇用することができ、これまで以上に地球温暖化抑制に貢献できるはずと、後期高齢者になった筆

者は考えているが、残念なことに、それを実現するのはなかなか難しい。

これまで好き勝手にマングローブに関する活動を行ってくることができたのは、偏に、４歳年下であるが農工大大学院では１学年先輩であった連れ合いのお蔭だと思っているが、ここしばらく後期高齢者のボランティア活動は続くようである。

３年ぶり

坂本　英介（蚕糸S53）

私は、2014年３月に神奈川県を定年退職し、蚕糸生物学科で学んだ縁でシルク博物館に５年間勤めた後、2019年４月から（一社）神奈川県園芸協会で働いています。当協会は､1957年に設立され、県内の果樹、花き、植木の生産者団体に対する生産活動支援､「花き振興法」関連事業、県内園芸農業の振興などに取り組んでいます。

その取り組みの中でコロナ禍の影響を最初に受けたのは2020年３月に開催予定であった植木品評会でした。会場の県立大船フラワーセンターが開催直前に臨時休園することが決まり、急遽、中止となりました。その後は、研究会、研修会等の中止、総会等の中止や文書開催、花の品評会等の集客イベントの中止など、当協会の事業にも大きな影を落としました。2020年春の卒業式が中止となり、舞台を飾る鉢花や、贈呈用の花束などがキャンセルになった生産者は頭を抱え、その後の冠婚葬祭の自粛や簡素化などイベント需要の減少が花の経営に大きく影響しました。「おうち時間」の増加により家庭園芸用の苗の販売が増加するなど、プラスの面もありましたが、総じて厳しい状況が続きました。

そこで、県内産の花をPRして生産者を応援するとともに、外出自粛で献血者数が減少している神奈川県赤十字血液センターを応援するため、献血バスなどで献血者に花をプレゼントする「はなさか献血キャンペーン」にセンターと連携して取り組みました。中止となった集客イベントの予算等を活用し、2020年・2021度に各８回、2022年に６回、延べ22回、6,410本･鉢のバラ、カーネーション、パンジー、洋ランなどを献血者にプレゼントしました。この取り組みで、8,336名が献血し、献血者確保の一助になれたのではと思っています。

生産者への技術支援のうち、県の植木や花の品評会は３年ぶりに再開しました。県外への視察研修はまだ難しい状況ですが、県農業技術センターほ場での研究会などは徐々に再開しています。生産者の皆さんの様子を見ると、植物や技術を直に見ながら仲間と情報交換する顔は活き活きとしており、画面越しでなく直に見て、聞いて、話すことの大切さを強く感じました。この原稿が掲載されるころには、さまざまな活動が本格的に再開されていることと思いますが、同窓会、クラス会、ESS OB会などでも、リアルな対面ができればと期待しています。

新刊「日本の川」撮影記

北中　康文（環保S55）

私が写真家として活動を始めて37年。今まで「日本の滝」や「日本の地形地質」（共著）など、日本列島の自然にレンズを向けてきました。そして､2023年４月､「日本の川」と題する写真図鑑を、東日本編＆西日本編の２分冊で出版（文一総合出版刊）することができました。還暦を過ぎ、３年半を費やして、北海道から九州までの全109一級河川を取材して回った成果です。その経験談を紹介させていただきます。

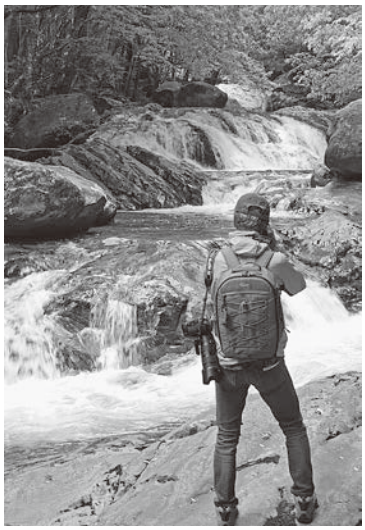
今回のミッションで最初の関門は、ドローンの操縦技術を身に付けることでした。川は高いところから俯瞰しないとその姿がとらえられません。ドローン空撮ができるよう、ドローンスクールに通いライセンスを取得。さらに、ミニバンを車中泊仕様にカスタム。蓄電池とカセットコンロ、食器や食材に調味料、寝袋や枕、そして撮影機材などを積み込んでパートナーとともに全国の川旅に出発。2019年の初夏でした。ところが、コロナ禍が広がり出した時期と重なり、行く先々で行動が制限される旅となりました。

本書「日本の川」には《源流から河口へ巡る旅》

という副題が付いているように、源頭の山もカメラに収める必要がありました。地形図とナビを頼りに、地上から見えない源頭の位置や方向を推定しドローンを飛ばすのですが、源頭の山を見間違え撮り直したことも度々。また、三重県の源流部では40～50m歩く度にヤマビルが急襲。そのヤマビルを靴やズボンから引き剥がしながら歩いた経験は、一生忘れられません。

日本の川の上流部は、簡単に人を寄せ付けないケースが多々あります。その最たるものが富山県の黒部川。もちろん、黒部ダムや欅平は観光地として知られ、高価な運賃（専用バスやトロッコ列車）さえ払えば誰でもアプローチ可能です。ところが、欅平～黒部ダム間の下の廊下や、黒部ダムより上流部は、険しいルートを山小屋に泊まりながら歩いていくしかありません。しかも、撮影目的なので、好天に恵まれることが必要条件でした。

予約しておいた山小屋は、目の前を黒部川が流れる絶好のロケーション。ただし、登山口から徒歩８時間以上かかるため、事前に体力づくりをして本番に臨みました。初日はあいにくの雨。視界も悪い中、10時間近く歩いて山小屋に到着。翌日から天気が回復する予報だったので、その可能性に賭けたのです。そして迎えた２日目の朝、黒部川源流部は見事な快晴。澄み切った碧水の流れを撮影し、さらに急登をくり返して雲ノ平へアプローチ。その一角からドローンを飛ばし、源頭の鷲羽岳（2924m）を空撮。送信機のシャッターボタンを何度もプッシュ。感激が最高潮に達した瞬間でした。ここが撮影できたことで今回のミッションは完了。３年半の旅が終わりました。



取材の撮影エピソードなどは、WEBサイト：ブンイチnote「日本の川を追いかけて」でご覧いただけます。

思い出と近況報告

齊藤　木市（林学S55）

新型コロナウイルス感染症が始まり、早３年となります。３密（密閉・密集・密接）の制限のため同窓会がなくなり、さみしい限りです。今年の５月８日から２類相当からインフルエンザなどと同じ５類に移行します。同窓会も行われることを楽しみにしています。まもなくマスクが外せますが、３年ものマスク生活、外した顔をみたら別人？さて、どんな学生生活かと思い出してみたが、昭和55年卒業であるから、43年前であり、なかなか思いだせない。

①サークル：植物研究会

植物研究会に入る。おもに高山植物の花をさがして、高尾山、北アルプス、尾瀬、北海道の大雪山系に登った。部室が隣の鳥研究会の行事で、三宅島に鳥を見に行ったこともあった。この時は、１週間、テントで自炊した。この写真は、サークルの連中５人とともに、大雪山系から北海道を一周した時の写真。写真左、忠別沼、向かって後ろ左は、私。右は、丸田裕一さん、前列、左は小島正彦さん、中央は福田眞二さん、右は村上敏文さん。残念なことに、平成27年９月に丸田さんが亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。その葬儀の時は、北海道を縦走した皆さんと再会でき、昔話でにぎわいました。

②アルバイト：テキヤ。正月に浅草寺で破魔矢、破魔弓を売り、焼きそばを焼いた。

③府中競馬場：ときどきでかけた。大半は負け、たまたま勝つとモランボンで焼き肉。

④研究室:砂防工学研究室。先生は塚本良則教授。元気なことと思います。

⑤マージャン：徹夜で雀荘～昼間はアパートでまた、雀荘に帰り麻雀。ふまじめな学生だった。

定年後、まだ会社勤めをしていますが、リタイヤも間近に感じるこのごろであります。今朝きた新聞にトルコ・シリア大地震、死者５万人超えとかロシアのウクライナ侵攻開始から１年となり日常に戦争の影濃くとある。コロナも終わり、にぎわいのある日常が回復されることを願っております。

北海道、大雪山系、忠別沼

変わりゆく風景と変わらないもの

曲沢　修（環保S59）

本学を卒業して40年近く経とうとしている。卒業と同時に実家に戻り、群馬県職員として37年間勤めた。今は再任用職員として、往復90kmを自動車通勤し、初めて「先生」として群馬県立農林大学校に勤務させて頂いている。県に就職して初任地が林業試験場であったため、専門分野は違っても多少なりとも大学時代の講義・実習やゼミで習ったことが役に立ったが、その後24年間は林業技師として林業行政に携わってきた。

農林大学校では、自分の子供よりも若い二十歳前後の学生を相手に、講義・実習や卒業論文の指導と、比較的密に接している。学生は２年間で森林・林業に関する基本的な知識と、チェンソー・刈り払い機等の実践技術を習得しなければならない。熱心に取り組んでいる学生に尤もらしく教えている自分が、学生時代が脳裏を横切り非常にむず痒い。

農工大府中キャンパスには、数年前に群馬県職員への就職斡旋のため約30年ぶりに訪問することができた。また、長女が調布にいることもあり府中の町も散策する機会があった。40年前の府中駅周辺の雑多な雰囲気は、群馬の地方都市の繁華街と似ており愛着があったが、今日の変わりよう・近代化には驚きと共に寂しさも感じた。しかし、一歩キャンパスの中に入ると、新しい建物の中のケヤキ並木や本館の佇まいは、40年前の学生時代を思い出させる。そして何よりも、教育・研究棟内の雑多な雰囲気や、何かに没頭している学生に今も変わらないものを感じる。

今、40年前の自分を省みながら、森林・林業に興味を持って学びに来た学生を前にして、どのような内容を盛り込めば好奇心をくすぐれるかを考えている。自分でも退屈だと思う講義では寝ている学生でも、森林土壌学実習でA$_0$（ゼロ）層、A層、B層の話をすると夢中で穴掘りをする。「好きこそ物の上手なれ」は昔も今も変わらないということを感じつつ、還暦を過ぎて、また学生になったつもりで、先生２年目を頑張っている今日この頃である。

土壌調査実習

卒業旅行の思い出

加納　優子（農化S62）

私が卒業した1987年はバブル景気直前で、Japan as No.1の自信と浮ついた世相の中、外国への卒業旅行が大ブームとなっており、私もご多分に漏れず、研究室で同じ先生にご指導いただいた二人で、13日間のヨーロッパ周遊ツアーに出かけたのである。ローマ→ドイツロマンチック街道→スイスアルプス→パリ→ロンドンと、初めてヨーロッパを訪れる人向けのゴールデンルートで、人数が40人近く（それも殆ど女子）、ホテルも食事もリーズナブルに抑えた学生向けのツアーだったが、飛行機に乗ることすら初めてだった私にとっては、緊張と驚きと感動の連続だった。アンカレッジ経由のため時差で前の日に戻ってしまう経験、北極圏を飛んでいる時にオーロラが見えたこと、半日かけてフォロ・ロマーノを散策したこと、おとぎの国からぬけでたようなドイツの街並み、マリエン橋から見たノイシュバンシュタイン城の絶景、中世そのままのカペル橋、シヨン城等々、数え上げればきりがなく、その時の風景と分かち合った思い出がよみがえる。

加えて印象深いのは、チップの渡し方、スリ対策、現地語のメニュー等、困ったり相談し合ったりしたことで、中でも一番の笑い話は、ローマのホテルの部屋で、謎の開かないドアがあり、どうにかしてこじ開けようと、ノブを回したり扉を押したり引いたりガタガタしていたところ、宿泊客から苦情を言われたことである。呼び鈴が鳴り、こんな夜分に誰だろうと恐る恐るドアを開けた私たちに、小太りのイタリア人（多分）の男性が、顔を赤くして、「The next room is my room!! Understand?」と言って去っていき、その瞬間ポカンとなった私たち。「そういうことだったのね」と理解したあと、安堵とともに苦笑いし合ったのだった（あの時のおじさん、本当にごめんなさい。コネクティングルームという構造を知らなかったのです）。

早いものであれから35年余り、仕事でもプライ

ベートでもその後海外に行く機会を得たが、海外が苦にならず、特にヨーロッパが大好きなのは、最初の経験である卒業旅行で楽しく笑い合い、傍で支えてくれた友のおかげだと思っている。本当にありがとう。残念ながら、もう一緒に思い出話をすることは叶わなくなってしまったけれども、人を惹きつける人柄と爽やかな笑顔は私の心の中でずっと息づいている。

東京農工大学少林寺拳法部ＯＢ会「拳友会」の活動ご紹介

間野　大樹（機シスＨ7）

本会は40数年の歴史を誇る本学少林寺拳法部のOB会です。秋の学祭では、演武会で学生部員が修練の成果を披露し、総会で事務局の活動報告と様々な分野で活躍する方々の講演会を行っています。2022年度は数年間にわたって猛威を振るったコロナ禍の収束にもようやく光明が見えて参りましたが、安心して対面で集える状況には至らず、昨年度までと同様にオンライン方式での開催となりました。講演会では、新役員として今後の拳友会の活動を牽引する若きOBから、自身の仕事についてお話しいただき、社会人のOBには様々な分野で活躍中の仲間による興味深い話題を、現役学生には就職に関する経験と考えを伺う貴重な機会となりました。拳友会は農工大と少林寺拳法を接点として様々な世代が集う親睦の場であり、温故知新の機会でもあります。ともに汗を流した皆さまのご参加をお待ちしております。

「拳友会会長からのご挨拶」

岡部　敏弘（林産院S56）

東京農工大学少林寺拳法部OB会の会長の岡部敏弘（一般社団法人 日本MRS 理事）と申します。

本会では、会員相互の交流を深め、現役学生の支援に取り組んでいます。職業訓練大学校少林寺拳法部と慶応大学少林寺拳法部の両方の監督をなさった須田敏和先生、八王子富士森道院の中島正樹道院長、東京農工大学少林寺拳法部の成田茂前監督、石崎良輔監督をはじめ、関係者の皆様に祝福され、2018年に40周年を迎えることができました。今後、創部45・50周年に向けて、現役学生の支援ために頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

私は、現在、喉頭ガンで、喉の手術をして話せない状態ですが、体調は回復したので、カーボンニュートラルの取り組みを積極的に進めています。循環型社会において、ものづくりのあり方は、徐々に変わってきています。これまではものを作る立場の人=生産者も、買う人=消費者も、大量に作られる新製品を売り買いすることを中心に考えながら生活していました。循環型社会では、生産者は製品の生産や使用についてだけでなく、その製品が販売されて廃棄されるまでの間、総合的に責任を負うことを意識するようになります。そうすることにより、環境にやさしいものづくりに必要な新しい技術の開発も進み、企業の活動そのものが大きく変わってきています。環境への影響が少ないように考えて作られた製品を環境配慮型製品と言います。私は、循環型社会に向けたバイオマス資源を用いた循環型処理技術の取り組みをグローバルに、推進しています。

朝ドラ『舞いあがれ』に想う五島の思い出

才津　行弘（獣医H11）

令和４年度後期に放送されたNHK連続テレビ小説「舞いあがれ」は、福原遥さん演じるヒロイン岩倉舞の生き方を描いた物語でした。このロケ地となったのが長崎県の離島、五島列島でした。幼少期、体が弱く引っ込み思案だった主人公舞は、母の実家、長崎県五島で祖母と二人で生活をする中で、豊かな自然やそこに暮らす屈託ない人々との関係の中で逞しく育っていきます。五島の伝統工芸品として親しまれるバラモン凧を鬼岳で揚げるシーンは正に主人公舞がこれから未来に向かって高く舞い上がっていく姿を表しているようでした。

さて、そんな舞の幼少期を育んだ五島の地、その祖母の名が「才津祥子（さいつしょうこ）」、私と同じ「才津」でした。この名は下五島ではメジャーな名前なのですが、ひとたび五島を離れると長崎本土でも珍しい名前となり、大概は「ざいつ」さんと呼ばれますので、私はいつも財はなくとも才能で乗り切るんだと言い訳しています。

私は長崎本土で生まれましたが、岩倉舞と同じように私の祖父母も五島におり、小学生の頃までは盆正月によく五島を訪れました。今のように長崎から90分で高速船が走る時代とは違って、フェリーの２等客室で毛布と枕を使い４時間揺られて、時には大波で体が横転しながら蒼白な顔で渡りました。爺ちゃんの自宅はアーケード内にあり、隣はおもちゃ屋さんで魅力的な立地でしたが、学校の教員であった厳格な爺ちゃんから何か

を買ってもらった記憶は皆無で、むしろ躾に厳しく、よく叱られましたが、時には近くの公園に行ってシーソーやブランコで遊んでくれた事もあり、懐かしく楽しかった思い出です。

大学卒業後に県職員の獣医師として３年間この五島に勤務したときは、非常に感慨深いものがありました。五島では国産和牛の五島牛や五島美豚、五島地鶏の「しまさざなみ」なども有名です。田畑も多く、作物も充実しており、五島の椿は有名で、資生堂のヘアケアブランド「TSUBAKI」に使用される椿油は五島産です。また、五島は釣り人にとっては憧れの地で、私も赴任時は毎週のように釣りに行っては、メジナ・イサキ・イシダイなど楽しませて頂きました。海には浮体式洋上風力発電事業もあり、自然環境との協調・共生を目指しています。また、五島長崎国際トライアスロン大会には近藤真彦（マッチ）もたびたび参加しており、その日は選手たちを島全体で応援します。

自然豊かな五島列島を一度訪れてみませんか？

東京農工大学スマートモビリティ研究拠点の紹介

工学研究院先端機械システム部門教授
ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
（機シス院H14）

スマートモビリティ研究拠点では、交通事故ゼロおよびゼロエミッションのモビリティ社会の実現に向けて、自動車交通事故防止のための安全技術と、地球温暖化・エネルギー問題対策の研究開発を行っています。特に安全技術においては、事故時の衝突安全から事故を未然に防ぐための予防安全へと、研究の軸足を大きく変える必要性が認識されるようになりました。

東京農工大学では、映像記録型ドライブレコーダによるヒヤリハットデータベース構築と分析や車両運動力学、制御工学、機械学習・データサイエンスによる移動体の運動制御研究などの実績があり、予防安全に関する公的資金の獲得や民間企業との大型共同研究の実績も多く、わが国における予防安全研究の拠点となる実績を備えています。本拠点の設置により、東京農工大学を中心としたスマートモビリティに関する産官学の研究コンソーシアムをより強力に推進しています。

2005年頃から始めたヒヤリハットデータベースは、タクシー会社の協力のもと、イベント登録件数が現在200,000件に達しています。この数字は世界に類を見ない大規模のデータベースであり、このビッグデータの分析・活用を通して、交通安全教育の充実に役立てたり、予防安全技術の発展に役立てたりすることを期待し、これまで以下の活用事例を展開しています。

【活用１】事故要因分析に関する研究

ドライブレコーダのトリガー（加速度の大きさによる閾値）の前後15秒間の時系列データにより、事故発生要因の分析を行っています。このデータベースの特徴的な点は、交通事故分析センター（ITARDA）のデータベース構造を踏まえながらも、文脈理解が容易なオントロジー構造にしたことにより時系列分析が容易になっている点であり、ビッグデータの包括的検索が容易になっている点です。

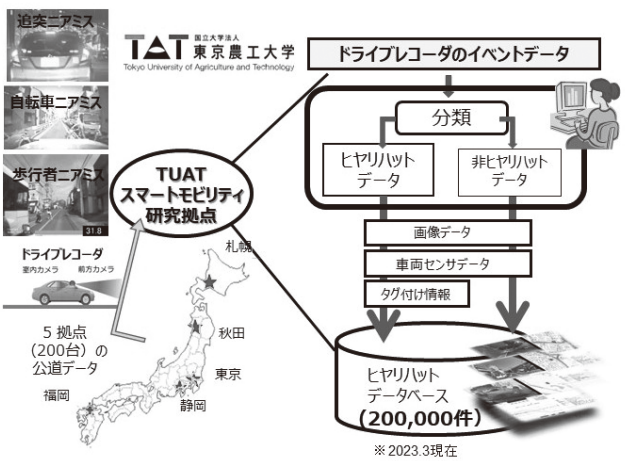
【活用２】交通安全教育への活用

警察庁、国交省等からの要請により、ヒヤリハット映像データを提供しています。例えば、自動車技術会では危険予測訓練用DVDへの活用、国土交通省によるあおり運転防止など啓発用DVDへの活用、警察庁による運転免許更新時の講習会の映像活用です。

【活用３】予防安全／自動運転に関する研究

自動車に装着されている衝突被害軽減ブレーキ（AEBS）機能の評価や、自動運転の安全性評価に活用しています。また、市街地のヒヤリハットマップを作成すれば、道路環境や交差点形状に依存して事故になる傾向が容易に予測することができ、交通事故削減に貢献できます。

本学の代表的な研究事例として、社会に貢献できるユニークな研究活動を行っていることをOB・OGの皆さんに知ってもらいたい。今後も引き続き、「事故ゼロ」という社会課題に対して、人工知能、車両工学、人間工学、画像処理、デジタルツインを高次元に融合させて、安全安心社会を実現するモビリティの研究を進化していきたいと考えています。



※2023.3現在

キャンパス便り

アフターコロナの農工祭

第64回学園祭実行委員長　佐野　翔梧（地域生態システム学科３年）

東京農工大学農学部第64回学園祭「暁」は昨年度11月11日～13日の３日間で行われました。１日あたり来場者数を3,000人とするなどの制限はありましたが、多くの人に足を運んでいただき無事に成功を収めることができました。

農工祭は、第62回は完全オンラインでの開催、第63回は対面とオンラインのハイブリッド開催のなかで飲食を伴う模擬店の実施と、コロナ禍でも毎年進化を続けてきました。アフターコロナを見据えるなかで、新しいかたちでの農工祭を作っていけるという期待と、新しいかたちでの農工祭が求められていることに私たちが次年度以降の基準になるのだという重圧を常に感じていました。

第64回農工祭は2019年度以来３年ぶりに武道場前ステージが復活しました。出演される学生や観覧される方に向けた新型コロナウイルス感染症対策はとても苦労しました。当時行われていたアーティストのライブや国や東京都のガイドラインを参考に観客席や観覧ルールを作成しましたが、特に当日ご来場された方がどのような動きをするのかがわからないので当日までとても不安でした。実際、当日は想定とは違う問題も発生しましたが、実行委員の柔軟な判断により無事にステージ企画を行うことができました。

農工祭を無事に開催するために実行委員の人たちは農工祭に対して真摯に取り組んでいました。実行委員の人たちとの農工祭の準備はもちろん辛いこともありましたが楽しみながら進めることができました。農工祭にご来場された方が楽しんでいる姿はもちろん、ステージや模擬店、教室展示などで生き生きしている農工大生の姿を見ると、長い期間をかけて準備をしてきて本当によかったという言葉では表せないぐらいの達成感がありました。

春休みに２年生に農工祭の運営のバトンを渡しました。東京農工大学農学部第65回学園祭の準備が進められています。昨年度以上の農工祭になると思いますので、ぜひ足を運んでいただけますと幸いです。

航空研究会

牧野　莉央（機械システム工学科４年）

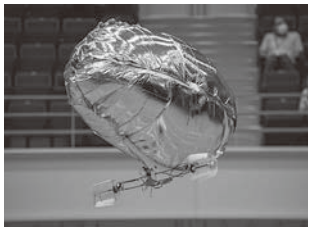
私は航空研究会に所属しており、これまでにマルチコプター（所謂ドローン）の電装をメインに担当しつつ、機体の設計など幅広く製作に携わってきました。また、引退までの１年間は部長として活動しました。

私はもともとモノづくりに興味がありました。私が入学したときは、コロナが始まった時期でした。そのような状況で、CAD（設計）ソフトやプログラミングのオンライン講座があったことが入部のきっかけでした。機体の設計からプログラミングまで、やる気さえあれば様々なことに関われるサークルであることが入部の決め手となりました。

活動において苦労した点としては、想定外のトラブルがあります。新しい発想、アイデアを形にするとき、必ずトラブルに直面します。ソフト、ハードどちらにおいても設計時には思いもつかなかった問題に対処する必要があり、これは骨が折れる作業でした。部長としては、チームを動かすことの難しさがありました。航空研究会は複数の班に分かれて活動しています。各班にリーダーがいますが、部長として複数班の進捗状況や新入生の教育の状況などを確認していました。問題がある場合はその都度担当者と話し、改善をしました。意見がぶつかることも多く、難しさを感じました。人を動かすことには、自分が製作することとは全く異なる苦労がありました。

やりがいとしては、ほかの部員と議論しながら設計する楽しさがあります。新しい発想を出しあいながら、よりよい機体の完成を目指すことができました。自分たちの作った機体が実際に空を飛ぶことは、非常にワクワクするものでした。特に、全日本学生室内飛行ロボットコンテスト出場機体、「MARK TWAIN」は、思い出に残っています。「MARK TWAIN」はシュナイダープロペラという推進機構を搭載した独創的な飛行船で、非常な高機動性を発揮して会場を沸かせました。

また、部長として新歓を担当した時には、20人以上の個性的な新入生と関わり、大変ながらもとても楽しい日々を送ることができました。このようなやりがいを感じられたことで、苦労を超えて活動にうち込むことができました。



MARK TWAIN

農学部・工学部協力による科学博物館プロジェクト「＃ワタを育てて機械を動かそう」の試み

科学博物館　特任助教　齊藤　有里加

2022年４月より、東京農工大学科学博物館では、「＃ワタをそだてて機械を動かそう」としてワタの種子を配布し、来館者の方々と一緒にSNSでワタの栽培を見守りつつ、12月に一緒にワタから糸をつくるワークショップを行いました。当館には貴重な繊維機械があり動態展示での公開を行って来ました。20年以上も続く試みですが、技術者の高齢化や、メンテナンス、素材の確保などその継続もだんだんと難しくなってきています。そのような中、参加者と一緒に素材の「ワタ」を育てながら、一緒に機械を動かし、見守り続けることができないか、と企画を立てました。

当初は、新入生を迎える「工学基礎実験」において、工学部が繊維の学校が由来であることを感じてもらうために、全員に種子を配布しました。その後、農学部の作物学研究室を始め農学部の学生にも種子の配布が広まり、留学生、学内職員の皆様と、ワタの栽培のネットワークが広がっていきました。活動は地域の博物館にもご賛同いただき、小金井市内の江戸東京たてもの園さんの敷地内においてもワタの栽培を行って下さいました。

元繊維の学校とはいえ、ワタの栽培に挑戦するのは私たちも初めてです。博物館の一角を耕して、博物館学生支援組織mussetと一緒にワタを育てました。台風が来たりひやひやしましたが、７月には黄色いきれいな花を咲かせ、11月ごろにはワタの収穫ができ、500ｇほどのワタを作ることができました。12月・１月のワークショップでは、農学部、工学部内で育てたワタがたくさん届けられ、また地域の方々もワタを持参してくださり、綿繰りから、梳綿（そめん）機を使ってワタを開き、そのワタをガラ紡に入れて、動かしてみることができました。１つの筒だけでしたが、筒から糸が紡がれている様子をみて、歓声が上がりました。育てたワタを使って糸にするのは初めてで、大成功です。わずかな糸をしおりに結んで皆さんに持ち帰っていただきました。

今年も４月からワタの種子の配布を開始し、農学部、工学部双方の力を借りながら綿づくりが始まりました。今年はどれだけのワタが集まるのかとても楽しみにしています。皆さんからのワタで糸づくりができるようになったら、次は機織りにチャレンジしたいと考えています。皆さんの応援とご参加をお待ちしております。

掲　示　板

QS分野別世界大学ランキング2023：農学・森林科学（Agriculture and Forestry）分野において世界第45位（国内第2位）の高評価を獲得

東京農工大学は、英国の世界大学評価機関のクアクアレリ・シモンズ（QS）が2023年3月22日に発表した分野別世界大学ランキングの農学・森林科学（Agriculture and Forestry）分野において、世界第45位（国内第2位）という高評価を獲得しました。

我々の教育・研究活動の実績、国際共同研究や農学・工学融合による教育・研究プロジェクトの推進、他大学・研究機関や産業界との連携強化、研究成果の積極的な発信などの取り組みが、世界的な調査に基づいた評価を向上させ、昨年の同ランキングから国内・世界ともに順位を上げることに繋がったと受け止めています。今後も、本学における教育・研究活動のさらなる質の向上と卓越した人材の育成に邁進します。

農工大学ディープテック産業開発機構

起業を目指す教員・学生の養成、学内シーズの発掘、知財戦略構築、事業計画策定支援等を通じて、本学の社会実装に関する活動・機能を一元的に担う新たな産学連携拠点として「ディープテック産業開発機構」が新設されています。

この機構は、イノベーション・エコシステムの形成に注力し、企業・大学・公的研究機関などの連携・共創の場となるオープンイノベーション拠点形成と、新たな挑戦を行うスタートアップ支援を行い、新産業の創出や産業構造の変革を目指す取り組みを推進することをミッションとしています。学長直轄の「フロンティア研究環」や、大学発ベンチャー創出の「イノベーションガレージ」等がすでにありますが、これらの事業を本機構が一元的に情報集約し、社会実装を強く見据えて戦略的に事業推進する組織となっています。そして、企業や公的研究機関との共創・連携によるオープンイノベーション拠点群の拡充、「組織」対「組織」の大型共同研究を中核とした産学連携促進、有望な起業家の発掘・育成によるスタートアップ創出を目指しています。これらの活動に使用できるイノベーションスペースとして、小金井地区3号館の1階及び、小金井動物救急医療センター3階に、機構が管理・運営するスペースが用意されています。3号館1階は、本学と連携を行っている企業が、そして、小金井動物救急医療センター3階は、本学で実施する動物診療をベースとした連携や、獣医工連携を含む農工融合をベースとした共同研究等を行う企業が利用できることになっています。

第1回　皐槻（さつき）祭（工学部学園祭）が開催されました。

2023年5月28日（日）東京農工大学小金井キャンパスにおいて、工学部学園祭が装いも新たに、「皐槻祭」としてリアル形式で開催されました。

当日は、天候にも恵まれ多くの方に訪れて頂き、大盛況のうちに終了することができました。また、在学生も久々のリアル学園祭という事で、今までの分も取り戻すかのように、実行委員は100人を超えたそうです。見る側・見せる側ともに大いに楽しんでいることが実感できました。高校時代にコロナ禍で学園祭を体験できていない新入生たちにとっても、盛大に開催できて良かったと思います。

皐槻祭という名称は公募で決めたそうで、「槻」の字はケヤキという意味があり、美しいケヤキ並木のある工学部キャンパスで開催される学園祭の名称にぴったりです。

この熱気を来年以降にも引き継いでくれるといいなと思いました。第2回皐槻祭は来年5月の開催を予定しています。

実行委員

詳しくは
「交流ラウンジ」にて！

慶　弔

（敬称略）

慶　事　お祝い申し上げます

令和５年春の叙勲

花野　耕一（農工S50）	瑞宝小綬章
矢口　芳生（克也）（蚕糸S51）	瑞宝中綬章

令和４年秋の叙勲

小林　駿介（名誉教授）	瑞宝中綬章

ご当選おめでとうございます（2023年統一地方選挙）

守永　信幸（植防S61）	大分県議会議員
鷹廣　　純（生産H９）	広島県議会議員
藤本　聡志（農学S53）	広島市議会議員
深谷　幸信（生命H15）	小平市議会議員
柄澤　地平（情報H24）	府中市議会議員

弔　事　ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます

名誉教授	村上　昭彦	
農学	谷　　信輝	(S18)
	橋渡　良知	(S25)
	芦澤　圭三	(S32)
	関谷　明生	(S47)
	内野　博司	(S50)
農専	佐藤　　澄	(S21)
農甲	梅沢荘三郎	(S23)
農乙	本江　昭治	(S23)
	柳原　克宏	(S23)
養蚕	鎌田　善一	(S24)
	名取　五郎	(S34)
蚕糸	芝田　良介	(S51)
蚕実	小野　秀記	(S24)
	安齋　利昌（平方）	(S26)
繊農	大槻　　誠	(S22)
繊別	後閑　重雄	(S33)
植防	古藤　　修	(S44)
農化	長南　康正	(S38)
	弓削田悦司	(S38)
農化	鈴木　庸介	(S39)
	細谷　朋子（杉山）	(S62)
農化院	原　　寛	(S50)
林学	有井　金弥	(S25)
	小林　正直	(S35)
	小峯　　賢	(S35)
	平川　隆夫	(S45)
農工	國府田佳弘	(S32)
	所　　矩雄	(S36)
	日浦　克彦	(S45)
獣医	山口　孝行	(S16)
	井料　堅治	(S30)
	志水　　功	(S30)
	原　　稔	(S30)
	加藤　正彦	(S32)
	岡崎　　進	(S38)
	山田　隆照	(S46)
獣医／獣医院	原　　文夫	(S59／S61)
獣畜	下里　良文	(S23)
	渡部昭一郎	(S24)
環保	滝川　正義	(H元)
環・資/環・資院	清水　英彦	(H7/H9)
製糸	秋元　武博	(S31)
	大野　正俊	(S33)
	正木　俊也	(S33)
	北見　嘉昭（内堀）	(S34)
	西丸　　健	(S34)
	新妻　實雄	(S41)
	安田　勝年	(S42)
	吉田　　清（佐藤）	(S56)
繊維	髙井　英雄	(S31)
繊工	堀越　　健	(S32)
繊化	神野　砂男（姜）	(S36)
工化	滝澤　睦夫	(S39)
	片岡　捷夫	(S40)
機械	久利　修平	(S49)
電気	村永　哲美	(H3)
電子	髙田　　裕	(S53)
応物	池浦　雅光	(S47)

（学科、卒年順）

※訃報の掲載は令和４年８月以降ご連絡をいただいた方（ご家族から掲載の許可をいただいた方）を掲載しています。井料堅治様につきましては、新聞等の訃報情報に基づき、掲載させていただきました。井料氏は小泉純一郎元首相のいとこにあたり、本学卒業後に獣医師となりサンパウロで動物病院を経営され、ブラジル日本文化福祉協会評議員会役員も務められた方です。

KSW 国際ソフトウェア株式会社

〒183-0034　東京都府中市住吉町1-81-12 KSWビル（京王線中河原駅から徒歩1分）

HIRAKAWA WINERY
YOICHI

ブドウ収穫・ワイン醸造作業 ボランティア募集

2023 年 9 月 15 日～2023 年 10 月 31 日（毎日）

登録方法について

右側 QR コードから、平川ファームオンラインショップのメールマガジンに登録をして下さい。のちほど、収穫作業のご案内を致します。

・2015 年に設立、現在、自社の畑のみでワイン 5 万本を生産するワイナリーです。
・余市でも数少ない南斜面の美しい畑で、区画ごとに白、ロゼ、赤、スパークリングワインと、多様なスタイルを生み出しています。
・畑で、農工大出身の方々と語り合えたら嬉しいです。よろしくお願いいたします。

北海道余市郡余市町沢町 202 番地 株式会社平川ファーム
代表取締役 平川 敦雄（生物生産学科 99 年卒）

世の中に野菜は沢山あれど…
大豆がいちばんだと、思う

中途・新卒募集中！
求む、
TOFU INNOVATOR！

㈱おとうふ工房いしかわ
〒444-1304
愛知県高浜市豊田町1-204-21
TEL:0566-54-0330
採用担当までお問い合わせ下さい

TOFU INNOVATOR
の秘密はこちらから！

グリーン航業株式会社の業務案内と職員募集

本社は 1974 年に設立、林野庁の空中写真ネガフィルムの受託管理・複製販売、森林施業図の作成等の事業成果を積重ね、今日、森林の持続的な管理経営に不可欠なデータの整備、生物多様性や森林吸収源、SDGs に寄与する事業を幅広く展開しており、母校退職教員、卒業生が従事しています。

【主な業務】

- 林野庁発注：「森林生態系多様性基礎調査」「森林吸収源インベントリ情報整備事業」
- （国研）森林研究・整備機構 森林整備センター発注：「森林調査業務」
- 衛星画像データ（エアバス社）販売、オルソ画像作成販売と機械学習を活用した画像解析
- 森林図作成（画像データと現地調査結果）
- 森林認証（SGEC/PEFC）コンサルタント、FIT 木質バイオマス事業者認定審査

【連絡先】

- 森林植生現地調査、植生図や森林図の作成等の従事技術者を募集しています。
- 〒102-0084 東京都千代田区二番町 5 番地 5　番町フィスビル 6 階
  TEL:03-3234-1382　　担当：本山（林学科 S48 年卒）

事務局だより

1．会費納入のお願い

同窓会はみなさまからの会費で支えられています。
本会の維持・活動のために会費納入にご協力をお願いいたします。
会費は次の通りです。

1. 終身会費　30,000円／70歳以上　10,000円
2. 年 会 費　　1,500円
（支払った日の属する年度（4～3月）分になります。）

同封の払込票にて、上記いずれかの金額を納入してください。会費を納めていただくと「正会員」になります。

◇農工通信に払込票が同封されていない方は納入済です。
◇年会費は過去に遡って納入の必要はありません。
※7月中旬時点のデータに基づいておりますため、行き違いで既にご入金いただいておりましたらご容赦ください。
※新たに70歳以上の会員が終身会費（10,000円）を納入する場合は、払込票の備考欄に生年月日をお書き添え下さい。

2．現住所等、ご登録情報に変更はありませんか？

毎年、お送りしている農工通信が住所不明で多数返送されてきます。現住所、お名前、勤務先等が変わられた際は、同窓会への届出も忘れずにお願いいたします。

同窓会ホームページ「会員情報の変更」から随時変更が可能です。同封の変更連絡票はがきでも受け付けております。

3．在学生への就職支援　勤務先情報提供のお願い

就職支援の一環として、就職活動中の在学生に対し、みなさまの勤務先と氏名の情報提供をしております。勤務先情報を提供されない場合は、同窓会HP「会員情報の変更」等からお知らせください。ご連絡がない場合は了承されたものとして、就職情報を在学生に提供させていただきます。なお、過去にお知らせいただいている情報提供の可否に変更がない場合は、改めてご連絡いただく必要はありません。

4．会員情報提供について

平成22年５月『同窓会会員名簿』発行の廃止に伴い、個人情報の提供につきましては、部会・支部・クラス会からの依頼により、従来の会員名簿に替わるサービスを行っております。

詳しくは同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご覧ください。

なお、本会が保有している会員の個人情報の公開については、ご本人の意向に沿って管理･運営し、個人情報保護には万全を期しております。

5．「農工通信」寄稿　随時募集！

寄稿内容は自由です（例：随想、近況報告、研究紹介等）。2024年、農工大学は創基150周年を迎えることにちなみ「私の○周年」等の原稿もお待ちしています！また「農工通信」に掲載する写真や絵、イラストも募集しています。

①**一般寄稿**：文字数 800字程度（写真1枚）　3月末までの到着分を次号９月の農工通信に掲載します。
②**クラス会報告**：300字程度（写真1枚）同窓会ＨＰ「クラス会だより」に掲載後、農工通信に掲載。
③**画像作品**（写真や絵画等）：表紙や挿絵に使用します。※採用の際はご連絡いたします。

・送付先email：tushin@tuat-dousoukai.jpn.org　同窓会事務局「農工通信」宛
・郵送の場合は原稿、写真等は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

編集後記　Editor's note

広報・情報部長　村上　尚（応化H12）

コロナ禍により縮小開催が続いていた同窓会定時総会も対面式の通常開催となり、農工祭も３年ぶりにイベント用ステージを設営した盛大なものになるなど、本号ではアフターコロナの便りが多く寄せられました。支部活動や部会活動も復活の兆しが見えてきており、以前のように同窓生間の交流が活発になることを期待しております。本年から同窓会HPに「交流ラウンジ」を設置しました。各地で活躍している同窓生の紹介や頑張っている在校生の姿がご覧いただけます。是非同窓生の皆様の情報発信の場として活用していただければと思います。

農工通信　第104号

発行日　令和５年（2023年）８月20日
発行所　一般社団法人 東京農工大学同窓会
連絡先　〒183-8538 東京都府中市晴見町3－8－1
（一社）東京農工大学同窓会事務局
TEL 042（364）3328
FAX 042（335）3500
e-mail info@tuat-dousoukai.jpn.org
URL https://tuat-dousoukai.org/
振替口座　00120－8－265877番
加入者名　一般社団法人 東京農工大学同窓会
印刷所　小野高速印刷株式会社
〒870-0913 大分県大分市松原町２丁目１番６号

本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター（FSセンター）で栽培した原料（米・芋・麦）をもとに製造した農工大ブランドの本格焼酎「賞典禄（しょうてんろく）」を販売しています。

［しょうてんろく］

賞典禄

農工大ブランド本格焼酎

お中元、お歳暮、贈り物に最適
部会、支部会、同窓会でも
ぜひご賞味下さい。

米焼酎　芋焼酎　麦焼酎　長期貯蔵酒（米）

酒類販売管理者標識

販売場の名称及び所在地	東京農工大学農学部フィールドサイエンスセンター 東京都府中市幸町3−5−8
酒類販売管理者の氏名	本林　隆
酒類販売管理研修受講年月日	令和2年9月29日
次回研修の受講期限	令和5年9月28日
研修実施団体名	一般社団法人 日本ボランタリーチェーン協会

賞典禄 FAX 注文票　以下のとおり注文します。

東京農工大学 FS センター　宛　　FAX：042-367-5801

年　　月　　日

【ご注文内容】

長期貯蔵酒 米焼酎（2,000 円）40 度 720ml	本	米焼酎（1,600 円）25 度 720ml	本
焼酎 米・芋・麦3種セット（4,500 円） 25 度 720ml×3	セット	芋焼酎（1,600 円）25 度 720ml	本
		麦焼酎（1,600 円）25 度 720ml	本
		合計注文金額	円

【ご注文者様情報】

お名前		フリガナ	
住所	〒		
電話番号		FAX 番号	
生年月日	T.S.H　　年　　月　　日	※年齢確認をさせていただく場合がございますのでご了承願います。	

【ご注意】
※1　お支払いは代金引換またはクレジットカードになります。詳しくは下記 URL をご覧下さい。
ただし、FAX でご注文された場合のお支払いは、**代金引換**のみとなりますので、ご注文者様以外への配送は致しかねます。
※2　ご注文いただいた上記金額の他に、送料（5,000 円以上は無料）及び代金引換手数料（代金引換額に応じた所定の金額）が必要になりますので、予めご了承願います。
※3　本注文票により収集された個人情報は、賞典禄の販売以外の目的には使用いたしません。

ネットショップ：農工大FSセンター夢市場

https://noukoudai.com/　URLが新しくなりました。

問い合わせ先　農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務室　TEL042-367-5811

電子メールアドレスご登録のお願い

同窓会員の皆様にはメールアドレスの登録にご協力いただき、データベースを構築してまいりました。以来、同窓会からのご連絡を電子メールにて迅速に行うことが可能となりました。引続き、メールアドレス未登録の会員様におかれましては登録の手続きをお願いいたします。

メールアドレスは同窓会からのご連絡および、部会、支部*からのご案内に限定して使用しますのでご安心ください。

なお、部会・支部からの案内送付の可否は選択いただけます。

＊部会（卒業学科・専攻単位）・支部（登録住所の都道府県単位）の活動です。

支部からのご案内は、ご登録のある都道府県を元にしておりますので、現住所をご登録いただけますと幸いです。

この春大学を卒業・修了された皆様

学部卒業時に（修士、博士から入学された方は修了時から）同窓会の会員になります。

保護者の方が賛助会に加入されていた場合は、在学期間中、会報は保護者様宛てにお送りしておりましたが、今号より同窓会員（本人様）宛てにお送りしております。

ご卒業後に住所変更された場合は、会員情報の変更をお願いします。

会員情報の変更はこちらより　□HP「入会・会員情報」より随時受付！

東京農工大学同窓会ホームページリニューアル！

2023年４月、同窓会ホームページがリニューアル。新たに「交流ラウンジ」ができました。各地で活躍している同窓生、在学生や教員の紹介や各種イベントなどの情報を会員交流の促進に向けて掲載しています。皆様からのイベント情報もお待ちしています。